

令和4年度 第1回小山市民フォーラム 議事録(定稿)

1. 日時 令和4年7月 23 日(土)14 時～17 時

2. 会場 小山市役所7階委員会室(傍聴者はオンライン)

3. 参加者等

(1) 運営委員8人

阿久津 治(委員長)、佐藤 佑子(副委員長)、荻谷 悠樹、伊藤 弘子、戎 奈央、
海老沼 和彦、竹本 真誠、知久 絵里香

(2) 参加者

① 参加者 25 人

② 協力者 4人 荒井聡【(株)新日本農業】、小黒弘征 【(株)いちごの里ファーム】
須藤英(栃木県本場結城紬織物協同組合)、山崎輝明(小山農業協同組合)

③ 傍聴 一般6人、市議1人、風景社2人、市関係者7人

(3) 小山市 浅野正富市長、雲井富雄副市長、吉澤安総合政策部長、目徳有一産業観光
部長、須郷幹雄都市整備部長

(4) 協力課 鈴木応幸農政課長、村上賢介都市計画課長、今井寿倫農政課課長補佐

(5) 事務局 篠原正シティプロモーション課長、柿崎泰延シティプロモーション係長
松本卓、福田直行、椎名悠、福田唄菜

4. テーマ 「“いなか”と“まちなか”の連携～小山の田園環境を満喫するには～」

5. スケジュール

開会(司会)

市長あいさつ

運営委員長あいさつ

運営委員紹介、市出席者紹介

意見交換①小山のいなかの魅力

～途中休憩(換気)～

意見交換②まちなかと連携・活性化するには？

閉会のあいさつ(市長)

閉会(司会)

6. 発言

○篠原シティプロモーション課長

皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、只今から、令和4年度第1回小山市民フォーラムを開会いたします。司会を務めますシティプロモーション課の篠原です。どうぞ宜しくお願い致します。開会にあたりまして浅野正富小山市長よりご挨拶申し上げます。宜しくお願い致します。

○浅野市長

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、また、大変な猛暑の中、令和4年度第1回市民フォーラムに参加いただきまして本当にありがとうございます。小山市民フォーラムは昨年、令和3年3月に初めて開催をいたしました。これは令和2年度の開催になりますので、令和2年度が1回、令和3年度が3回、そして、今回が令和4年度第1回となり、通算5回目の市民フォーラムになります。運営委員の方に進行をお願いする形でフォーラムを行っており、前回までは6名の運営委員の方に進行をして頂きましたが、前年度末で2名の方が卒業され、今年度になり、4名の方が加入され、今回から8名の運営委員の方に進行して頂くことになります。運営の仕方も最初の頃はどう運営したらいいだろうと試行錯誤しており、進行も非常にちぐはぐしたようなところもございましたが、最近ではだいぶ慣れてきましたので、是非皆さまに思う存分意見を交わして頂けたらと思います。

今回のテーマ、「いなかとまちなかの連携」ということで、これは小山市の市政方針の1つであり、田園環境都市おやまのまちづくりに関連する非常に重要なテーマになっております。事前に、本日参加して頂いている方が出して頂いた意見があり、その中のおひとり、小山というのは東京のような、都会から見ると田舎ですし、県内から見ると、まちなか、といったご意見がございました。半分田舎であり、半分都会であるというのが小山の特徴で、私はそれを田園環境都市という言葉で表現をすることにした訳でございますが、この半分田舎で半分都会というのが、やはり小山にとって大きな魅力であり、それを将来維持していくことが非常に重要でございますが、農村部は少子高齢化と過疎化が市街地よりもずっと進んでおります。ですので、小山市の中ではまちなかよりも、農村集落の過疎化は大きな問題になっており、半分田舎、半分都会というバランスをこれからも維持していくためには、農村集落がきちんと維持されることが大事なことを考えております。それは農村に住んでいる方だけに頑張って貰えばいいということではなく、小山市のまちなかに住む方も、小山市の魅力は半分田舎、半分都会にある、そういうまちであると意識し共有して頂いて、半分田舎の部分をどうやって維持し、この魅力を守っていくかを市民全体で、この「いなかとまちなかの連携」を考えて頂く、これから良い環境を維持していくために取り組んで頂くことが非常に重要なことと思っております。今回の小山市民フォーラムが「いなかとまちなかの連携」をこれから進めていく上で有意義なものになればと考えておりますので、5時までの3時間弱になりますけれども皆様から活発なご意見賜ればと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。

続きまして、本日の参加者をご紹介致します。本日は10代から60代の25名の方々にご参加頂いております。また、6名の傍聴の方もいらっしゃいまして、その方々につきましては、別室6階会議室で本フォーラムを聴いております。

それでは、本市民フォーラムの運営委員として企画、運営にご尽力頂いております8名の市民の方を代表して阿久津委員長よりご挨拶お願い致します。

○阿久津委員長

改めまして皆さん、こんにちは。非常に暑い中、またコロナ禍のほうも、ここに来て、少し増えてきたのかなというところがございます。これまで市民フォーラムも結構な回数をやってきて、今までやってきた中で沢山のご意見を参考にみんなで話し合いながら、どのように進めていくか、これからの課題などを考えながら、運営委員も頑張っております。今日のテーマはいなかとまちなかということで、そもそも小山自体がまちなかであるかという疑問について、私自身も色んなまちに行って無意識に比較しているのですが、小山が都会か田舎かというと、やはり田舎のまちと答えてしまうのですが、そういった観点から、色々なお話がここにいる皆様から頂けたらいいなと。なにか解決策が見つければもちろん良いですし、まだ知らないことも沢山あると思うのです。お互いが色々な意見を言って頂ければ良いと思っております。

話は変わりますが、先日、私の娘とバーベキューを同じ学校のパパママ達と一緒にやったのですが、その場所に川があり、ザリガニがいるので、取りに行ったのですが、ザリガニを触れない親がいっぱいいたのです。それで、私が率先して捕まえたのですが、時代の流れというか、このコロナ禍でAI化が進んでということもあるのでしょうか、田舎で過ごした経験がないって人達が沢山いる。そのバーベキューでは、そのあと火を起こそうって話になったのですが、火ってどうやって起こすのですかって人もいました。小山というのは、先ほど市長からもお話でも、都会と田舎と両方が味わえる、一番魅力があるところがそこなんじゃないかと思います。

一方で、これは課題でもあり、それぞれの魅力が融合できたら、すごく良い。まちなかにいる人が農家の人達のために出来ることがあれば、一緒にできたら良いし、そうやって作られた作物をまちなかで活用することができれば、どんどん良い流れが生まれる訳で、小山がそうになっていければと思っております。こういった話を今日は皆さんとたくさんできれば良いと思っております。3時間という長丁場になりますが、楽しくやっていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。それではその他の運営委員の皆様をご紹介します。
副運営委員長、佐藤佑子様

○佐藤副委員長

よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長
同じく、運営委員、海老沼和彦様

○海老沼委員
よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長
同じく、戎奈央様

○戎委員
よろしくお願い致します。

○篠原シティプロモーション課長
同じく、竹本真誠様

○竹本委員
よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長
同じく、知久絵里香様

○知久委員
よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長
同じく、壺谷悠樹様

○壺谷委員
よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長
また、いなかの魅力の協力者として、農業生産法人株式会社新日本農業 荒井聡様

○荒井氏
よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長

小山農業協同組合 営農経済部 園芸販売課 課長 山崎輝明様

○山崎氏

よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長

農業生産法人 株式会社いちごの里ファーム 代表取締役 小黒弘征様

○小黒氏

よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長

栃木県本場結城紬 織物協同組合 理事長 須藤英様

○須藤氏

よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長

大変失礼いたしました。運営委員 伊藤弘子様

○伊藤委員

よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長

続いて、市側の出席者をご紹介します。改めまして、浅野正富市長

○浅野市長

よろしくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長

雲井富雄副市長

○雲井副市長

皆さん宜しくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長
吉澤総合政策部長

○吉澤部長
宜しく願い致します。

○篠原シティプロモーション課長
目徳産業観光部長

○目徳部長
宜しく願い致します。

○篠原シティプロモーション課長
須郷都市整備部長

○須郷部長
宜しく願いします。

○篠原シティプロモーション課長
宜しく願い致します。

それでは本日の予定をご案内いたします。開催概要をご覧ください。本日のテーマは「いなかとまちなかの連携～小山の田園環境を満喫するには～」です。ここで少しお時間を頂きまして、私から本テーマを取り上げるに至った経緯を説明させて頂きます。昨年度第2回市民フォーラム「わたしが住みやすい小山にするためには」で、商店、まちづくりの意見交換をさせて頂いたのですが、その中で、生井地区の海老沼委員から、農村地帯と市街地の方が上手くマッチング共存できる仕組みがあれば、上手く融合したまちづくりが出来るのではないかとのご意見を頂きました。また、実家が小山市、仕事で都心通勤されている方が、初めてコウノトリの関係で交流会に行かれたところ、小山にこういった農村風景、稲作、そういったものがあることを初めて知った。そういうものをお子さんにも伝えていくことが、すごく大切だというようなお話しがございました。また、浅野市長からも、「おやま」という言葉を使っても、それぞれ住んでいる所でイメージが微妙に違っていて、いろんな「おやま」があるのだということが大事だというご意見を頂いたところから、今回は、いなかとまちなかの魅力に着目し、テーマとして取り上げることとしております。事前に皆様から27件のご意見を頂き、お手元にある資料のように共有させて頂きました。それを元に、前半を①いなかの魅力 ということ、いなかの魅力を色々と語って頂きまして、後半は②まちなかの連携と活性化 ということ、皆様と2部制で意見交換をさせて頂きたいと思います。

午後 3 時 20 分から 10 分間、換気で休憩をさせて頂き、閉会は午後 5 時の予定となっております。進行方法は、運営委員を進行役に、参加者の皆様からテーマに関連するご意見を頂きまして、適宜、浅野市長からご意見、それと市側からも説明などをさせて頂きます。尚、本日出席の担当部署以外のご意見などについては、この場でご回答できかねる場合がございますが、後日、こちら議事録を作成させて頂きまして、市役所内で、貴重なご意見ということで共有させて頂き、ホームページにも公開させて頂きます。

発言の際は、挙手をお願いしたいと思います。会場のマイクは事務局側のほうで操作しますので、特にお手元側の操作は不要となりますが、傍聴されている方にも良く聞こえるように、マイクから拳1個分くらいの近さで発言して頂くと、声がとおりやすくなりますのでお願い致します。それから、皆様から多くご発言を頂くために、1回の発言は2分以内で、ご協力くださいますようお願い致します。事務局から、残り1分になりましたらベル1回、それと、30秒でベル2回、ベルを鳴らさせて頂きますので、3回鳴りましたら、一旦そこで発言は中止と言う決まりで進めさせて頂きます。

また、本日はテレビ小山放送にご協力いただき、本日の様子を後日、コミュニティチャンネルなどで放送いたしますので、ご承知おきください。宜しくお願いします。

それでは、早速意見交換に入るのですが、その前に、今回言葉で「いなか」と「まちなか」を使っておりますが、共通認識として、「いなか」の方は皆様のお手元に都市計画区域図という地図を置いておりますが、これの色のついていない部分を市街化調整区域と呼び、市街化を抑制すべき地域、周辺部となっております。その部分を今回は「いなか」、「まちなか」はこの地図で言うところの色がついている部分とすることとし、このような共通認識で、意見交換をさせて頂きますので宜しくお願い致します。それでは、早速、運営委員の皆様に進行をお願いしたいと思います。

テーマ①いなかの魅力を阿久津委員長、伊藤委員、竹本委員、知久委員、宜しくお願い致します。

○阿久津委員長

私は、小山商工会議所青年部に所属しています。お仕事のほうは、駅前で薬局、不動産賃貸業、飲食店もやっております。駅前で生まれて駅前で育ちました。ただ、うちの実家、本家というのは、横倉にありまして、どちらかというとそちらのほうで沢山遊んで育ってきたというのがありますので、非常に今日色んなお話が出来て楽しみだなと思っております。今日は、沢山の質問、ご意見を頂いております。その中でも色んな意見があるので、今日出来ればここにいらっしゃる全員、1部と2部とがあるのですが全員喋ればいいなと思っておりますが、どうしても時間の都合があるとは思いますが。ということでこのまま進行しても良いですか？

○篠原シティプロモーション課長

すみません、一旦私の方からいなかの魅力ということで、先ほど4名の協力者をご紹介させて頂いたのですが、改めて協力者の方にご自身の活動を含めお話を頂ければと思います。それでは、最初に農業生産法人 株式会社新日本農業 荒井聡様、よろしいでしょうか。宜しくお願い致します。座ったままで結構です。

○荒井氏

皆さん、こんにちは。ご紹介頂いた新日本農業の代表取締役の荒井聡と申します。私は絹地区で農業法人を営んでおりまして、イチゴをはじめ、土地利用型農業をやっております。また、イチゴなどを利用して6次産業にも取り組んでいるところです。私自身は昼間はいなかで農業をやって、夜は大体小山のまちなかで遊んで、いなかとまちなかを有意義に行き来して楽しく小山市で過ごしている訳ですが、今回はいなが抱える問題等でご意見などが出たら、協力出来ればいいかなと思っております。聞きたいことがございましたら、出来る範囲でお答えしますので宜しくお願い致します。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。続きまして、農業生産法人 株式会社いちごの里ファーム 代表取締役 小黒弘征様、お願い致します。

○小黒氏

改めまして皆さん、こんにちは。小山市の美田地区でいちごの里ファームという観光農園を営んでおります。イチゴ狩りはもちろん、今の季節ですと、モモやブドウ等のフルーツ狩りもやっております。私は小山市内の城南地区に住んでおりますので、まちなかといなかの連携というところに非常に興味がありますので本日この議論を非常に楽しみにしておりました。どうぞ、本日は宜しくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございます。続きまして、小山農業協同組合 営農経済部 園芸販売課 課長 山崎様、宜しくお願い致します。

○山崎氏

改めまして皆さん、こんにちは。小山農業協同組合の山崎と申します。農協と言いますと、金融、購買、また営農といった、どちらかという農業中心の部分があるかも知れませんが、金融関係もあります。そういったことで、うちの農協は総合事業という部分をやっております。私につきましては、営農部門で、常に組合員さんと農家、直接触れまして、その中で私はどちらかという市場流通販売と言いますか、農家、組合員さんが持ってきたものを市場へ販売していくような業務をやっております。そういったことの中で、色んな新たな販売方法というのがある

かもしれませんが、今回こういうところに参加させて頂いて、新たなヒントを、得られればと思います。また、皆さんにお伝えできることがあれば、また伝えていきたいと思いますので宜しくお願い致します。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございます。続きまして、栃木県本場結城紬 織物協同組合 理事長 須藤英様、宜しくお願い致します。

○須藤氏

皆さん、こんにちは。私は、栃木県の本場結城紬の織物協同組合の須藤です。小山市の地図を見ますと、一番東の端っこにくっついたようなところで、そこで作っているのですが、組合員の8割はその絹地区の中にいますが、現在、組合員全部で20人しかいないです。商品名は皆さんも知っていると思うのですが、そのような環境の中でやっております。本日はちょうど目の前の人々が着物を着てきてくれたので、非常に嬉しく思っています。何か質問がありましたらどうぞ宜しくお願いします。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。それではまた、進行を阿久津委員長にお戻し致します。宜しくお願い致します。

○阿久津委員長

それでは始めましょう。今、お話も伺ったところで、生産している方もいれば、それを扱っている人もいますし、色んな立場の人が沢山いらっしゃいますので、今のお話の中でもあったのですが、JAさんが言う、物販の仕方とか、生産したものがどういうふうになれば色んなところで活躍できるのかなというところとかも含めて色んなご意見頂ければなと思いました。あらかじめ質問のほうをこちらで見たところ、最初は挙手ではなく指名してもいいですか？すみません。5番のご意見を聞いてからの方がすごく素晴らしいスタートをきれるような気がするので、田舎への想いを交えたお話を聞かせて頂いてもよろしいでしょうか。

○参加者

皆さん、こんにちは。私はここに書いてある通り、市内の田舎、寒川地区から都内の大学まで通学しています。そうした中で東京はすごく都会なのですが、いなかの魅力は都内から帰ってくると、例えば、夏だったら蛙の合唱聞こえますし、虫の合唱だって秋になれば聞こえてきますし、自分もゴールデンウィークは田植えを手伝ったりして、そういう空気を直接感じることができる。これは田舎だからできることと思うのです。星空もすごく綺麗というものなのですが、これをまちなかの友達に話すと「いや、それ知らない」と言われる。例えば、コウノトリが渡

良瀬遊水地に生息したってことをまちなかの人に話すと、「コウノトリってなに？」って返事される事が多く、そうした中で渡良瀬遊水地の知名度自体も市内の中でも広がっていないんじゃないかと思いますし、まちなかといなかの交流というところで、下生井小学校の児童がまちなかの同級生に「渡良瀬遊水地はこういうところだよ」って教える活動を聞いたことがあるのですが、渡良瀬遊水地にこだわらなくてもいいんじゃないかなというところが個人的にあって、そうしたところの市長のご意見とか、市長の先ほどの話の中で半分田舎、半分都市というのが田園環境都市なのだけれど、地元の小学校は今年2人しか入学していないし、農協の支店も無くなりそうだし、そうしたところで生活を維持するための政策ってどのようなものがあるのか気になったので今回応募しました。

○阿久津委員長

素晴らしい、ありがとうございます。今のお話を聞いて、やっぱり色んなところを知らない人って多いんですね。経験したことじゃないと。さっき言ったコウノトリも然り、知らない人は本当に知らないですわね。良いところがいっぱいあるってところは田園環境都市というものがどのようなところで、市長に振ると答え合わせになるところもあるので、もうちょっと皆さんの意見を求めてから答え合わせをするという形で、市長のご意見は最後まで喋ってもらうのはやめようかなと、もうちょっとしたら振ります、すみません。

今の話についてどうでしょう。知久委員も同じようなことを、違う観点から思っていることを、もしあれば。

○知久委員

改めまして皆さん、こんにちは。知久絵里香と申します。仕事はピアニストとして活動しているのですが、長年小山に住んでおりまして、まちなかと呼ばれるところに住んでいます。ですが、今はまちなかですけれども、かつて私が子供だった頃は30年以上前になりますけれども、本当に沢山の田んぼとか畑があって、先ほど安達さんのお話にもあった蛙の合唱なんかを本当によく子供の頃は聞きながら育ちました。共感するところも沢山あったのですが、芸術の分野に身を置いている自分から、一言意見を言わせて頂きますと、自分の表現をしなければいけない場面というのはすごく多くて、何かイメージして、クリエイティブする力が求められるような場面はすごく多いんですけれども、そういう時に自分が子供の頃に見聞きたいなかの風景とか、虫の声とか、そういったものが今すごく大きな助けになっているなって感じています。でも、こういう田舎の魅力って全然直接的にみんなに伝えることではないので、なかなか小山の田舎の魅力って言いづらいところはあるんですけれども、実は直接的じゃないところにも小山の田舎の魅力っていっぱいあることを、もっともっと多くの方に知って頂けたらいいと思いますし、そういう方法なにか見つかったらいいなという思いでいます。私からの意見は以上です。ありがとうございました。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

なにか、いなかでこういうことをやっているんだよっていう方法とかで、誰か挙手でいいんですけれども、うちはこういうのやってるよとか、ここのいなかでこういうアピールしてたりするんだよという方いらっしゃるんですか？

○参加者

私は10年前から農業を営んでおりまして、実際住んでいるのはまちなかに該当する地域に生まれ育ってはいるんですけれども、実際自分が住んでいるところの近所には畑とか田んぼは全然ないので、離れた田舎の地域に畑を借りて農業を営んでいるんですけれども、直近でいうと明日、うちの場合は農業体験を企画しておりまして、今年で3年目になっています。隔月で奇数月におこなっているんですけれども、ほとんど参加者の方は東京とか神奈川、千葉の方が多くて、最近今年になってからは小山市在住の方もいらっしゃるんですね。そういう方たちに聞いてみると、小山に移住してきた人というのがほとんどで、先ほどからも出ている通り、元々小山のまちなかとかに住んでいる方が田舎の魅力というのは、正直さっきもあったんですけど、ザリガニは素手で掴めない農家なんかもあるんですね。僕もどちらかという都会派というか、農家の中でも自然と戯れるのはどちらかというと接してこなかった部分なんですけれども、ここ5、6年になってから、森の整備とかも最近始めまして、そういうのに参加者の方を連れて行ったりすると、それだけで、そういう環境がある時点ですごく感動してくれるというのを実感しておりますので、うちの場合は発信するのはSNSでしかやっていないんですけれども、それだけでも充分集客力っていうのはあると思いますし、都心からのアクセスもすごくいいと思いますので、そのへんを今、僕のような農業者じゃなくても色々な農業者がいると思うので、そういう方に色々展開していければ外からの人も呼べますし、まちなかの方からも呼べると思いますので、なにか参考にして頂ければと。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

そういった農業体験もすごく大事ですし、それでいざやってみたくなくてやった人も中にはいると思うんですけれども。ありがとうございます、貴重なご意見。そういった意味で1番の方のご意見というのが非常にいいかなと思ったのですがいらっしゃるんですか？

○参加者

はい、1番が私の意見だと思うんですけれども、もっともらしいことを書いたような感じになっちゃって全然自分の体験とかは入っていないんですけれども、私小山の南東のはずれ、大谷南部地区でイチゴ農家をしています。それで10年くらいイチゴ農家をしているんですけれども、自分の家の庭先でイチゴをこじんまりと販売してまして、近県の方とか、もちろん小山市内

の方も来てくださっていますし、それ以外の少し遠いところだと横浜とか長野とか、人によっては海外からも本当に小さなイチゴ農家なんですけれども「このイチゴが食べたい」ということで来てくださっている方もいらっしゃるので、特別なにか体験事とかしている訳ではないんですけれども、日常の仕事の中に人を呼び込むきっかけがあったんだなと自分では思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

今のご意見に対してなにかご質問等があればなんですけれども、竹本さんなんかはどうですか？色んな目線できっと見ていると思うので。

○竹本委員

はい、私は先ほど海外って言いましたよね。私は海外出身の今日本国籍なんですけど、ペルー出身なんです。私の海外から出身の目線でお話させて頂きますと、やはり日本の農家のレベルの高さ、品質について、海外と比べ物にならないような品質があると思いますし、向こうも生産性が日本に比べればそんなに高くないし、大きな土地で色んな野菜や果物を育てているんですが、日本の小さい土地でこんなに美味しいものを作れるだなといつも感心しております。なので私は結構興味ありますね。

○阿久津委員長

色んなイベント事を企画して色々やっていて、かなりの人たちが来るんですか？

○参加者

ここ2, 3年はコロナ禍で回らないということもあって、庭先での販売は今はストップしている状態なんです。ただ、イチゴとまた別に今年から有機稲作に挑戦し始めていまして、学校給食に使ってもらうために、学校給食を有機化していこうというおやまっ子の未来を担う方たちを招いて、田植え体験をしたりしています。また、田園環境都市おやまの会というのにも私個人が参加していたりして、仲間にも来てもらったりしています。以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

最初のお話でも、今のお話でもあったんですけれども小山市は行政としても、色んな協力とか、やっているようなことはありますか？

○須郷都市整備部長

私のほうから色んな話を聞いた中で、個人的な話と行政側の話をさせて頂ければと思います。最初 5 番の方の話を聞いて個人的に感じたのは、今は市街化区域、町場で都市生活を送っているのですが、小学生の頃はもっと県北の電車の通っていないまちに住んでいて、家の周り全部田んぼだったので帰ると蛙の声が聞こえたり、星が綺麗だったりとか、川に行ったらサワガニがいたりとか、そういう環境の経験もあるのですごく懐かしく聞かせて頂きました。小山の PR ポイントとしては新幹線がとまる駅と、そういう自然環境がとても近くにあるというのが個人的にすごい魅力とっております。個人的な体験で言えば10年くらい前ですけども、子供が小さかった頃に博物館の天体望遠鏡で、生井地区で星空観察会をやった時にすごく綺麗に星が見えたのを覚えていて、農業体験の交流もあるかと思うのですが、そういう形の交流もあると色々まちの人と郊外の人とが繋がる機会が出来ていくのかなと思います。仕事の話させて頂きますと、今、都市計画マスタープランと緑の基本計画について、将来の小山という都市が町場はどうあるべきか、郊外はどうあるべきか、町場の公園の緑はどうあるべきか、郊外の平地林ですとか自然環境はどうあるべきか、今プランの見直しをさせて頂いております。まず、小山市の風土の成り立ちからということで昨年度から調査をさせて頂いているんですけども、その中で色々分かってきたことが、自然の持つ力、木や木陰の持つ熱調節の作用ですとか、水循環、大気循環に及ぼす作用などは自然環境の偉大さって分かっていまして、都市部はどうしても人工的に都市を作っている中で、その中でも緑や木陰や水辺やそういうものを増やしていくことで、自然の持つ循環を都市部でも取り入れていくことで、将来に渡って町場と郊外がバランス良く調和を保っていけるのかなと今感じながら仕事させて頂いております。以上となります。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

出たお話の中から、4番の方のお話なんかも見ると面白そうなのでいいですか？

○参加者

私はどちらかというとまちなかのほうに住んでおりまして、今は埼玉から単身赴任で小山に大体4年目くらいになります。小山に最初に来させて頂いた時にびっくりしたところで言いますと、駅前のほうが安いアパートが多くて、50号沿いのところがちょっと高めの新しいアパートが多くて、何で駅前のほうが安いんだろうなと思っていたんですけども、私が働いているのが梁・絹地区でもありますので車が必要なところ、そういうところに行ってみると、小山は車がないとなかなか厳しいんだなということで実感した次第にはなります。私どものほうで都市かというどちらかというと、働いているのは梁・絹地区ではあるんですけども、そういったところがいなかと言われるような場所です。都市計画のところで言いますと、その部分で私たちが野球関係のプロ野球の選手でしたりとか、社会人野球の選手、そういった活動をしていまして、そのメンバーで農業もやってます。そのメンバーたちもどうしても小山に引退した後も根

付いて頂くように努めているところではあるんですけども、どうしてもいなかの部分が地図にもあります通り、調整区域のところが多くありまして、実際そのメンバーたちもどうしてもまちなかになるか、近いところと言うと結城市になってしまう。そういったいなかの住むところの問題を、今後一緒に検討させて頂きながら小山市の人口を増やすためにというところでも、会社のほうでも色々活動させて頂きたいと思い、参加させて頂いた次第でございます。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

書いてありますけれども、観光客を増やしたいのか、それとも外から小山市に来てもらいたいための取り組みなのかということですね、結局。

○参加者

そうですね。小山市に私たちが来させて頂いた時に最初に市からお話頂いたのが、小山市を20万都市にしたいというお話をよく頂いていましたので、ただ、今は色々な市と協力してという話もあるので、今回のテーマにしては人口を増やすものについてなのか、それとも観光客を呼び込むところなのか、そういったところも含めて色々お話できればと感じました。

○阿久津委員長

なるほど。ありがとうございます。

今の4番の方のご意見になにか賛同する方でもいいですし、何かご意見ある方いらっしゃれば。そうしたら伊藤さん、思いがあると思いますのでご発言されますか？

○伊藤委員

伊藤と申します。先ほど4番の方、埼玉からいらっしゃったっておっしゃっていたじゃないですか。私も4年ぐらい前に九州から引っ越してきました。夫の仕事の都合で。私がやっていることとしては病院で事務員をしています。下野市の病院に電車に通っているんですけども、駅前のほうが値段が安くて、50号沿いのほうが高くてなんでだろうと私も思った口です。なんでかと言ったら車が必要不可欠なまちだからというのを肌で実感しまして、私の地元がバス会社が色んなところを牛耳っていると言いますか、西日本鉄道株式会社の傘下で生まれ育ったような人でして、電車やバスとかの公共交通機関が発達していたんだと今としては思うんですけども、先ほどの移住する人が20万都市にしたいっていうところ、色んなところから人が来てほしい、住んでほしいっていうところでは、車を持っている人ばかりではないと思うんですね。外から来る方達って。高齢化も進んでいますし、公共交通機関の発達が必要というのは、地元が西日本鉄道株式会社の傘下だからというのものもあるかもしれないけれど、おーバスあるじゃないですか。小山市にもバスはありまして、それをもっと活用していけたらいいんじゃないかなというのが。よそから来た人にも市内の移動手段が車はレベルが高いと言いますか、私

はレベルが高いなと思っちゃうんですけど、バスや電車、電車はしっかりあるので、その発達が必要と思ったんです。おーバスさんってこういうの作っているっていうの、これ駅に置いてあったやつを持ってきたんですけども、結構隅々まで走っているし、デマンドバスってタクシーみたいに呼んだら来る系のバスも作られている、仕組みがあるようで、そのあたりを皆さんがご存じだったらまちなかといなかの行き来がまず、しやすいというのが交流の第1歩になるんじゃないかなとは思いました。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

今のご意見の中でおーバスというフレーズが出てきたんですが、当然この中にいらっしゃる方でもおーバスってすぐ近くまで来ていますか？実際。近くまで来てないよって方、いらっしゃいます？（ぼつぼつ手が挙がる）

そうですね。私もそこ思うところで、いなかとまちなかを結ぶ交通手段っていうところ、非常に大事になってくるのかなと思います。先ほどもお話があったけれど、農業体験に然り、じゃあどうやって行けばいいのかって言ったときに、車しか方法がないというところは、その人集めをする中でかなり懸念するところだとは思うんですよね。今言ったお話のように、人口を増やしていくってこともあるんですけども、そこらへんというのも大事になってくるのかなと思います。せっかくなんで、今の現状をお願いします。

○須郷都市整備部長

都市整備部の須郷と申します。少しバスの話をさせていただきます。始めの話からいくと、小山市のおーバスということでコミュニティバスを走らせて頂いているんですけども、定住者向けと観光の方ですとか誰でも外から来た方、誰彼問わず皆さんに使っていただけるということで運行させて頂いています。色々PRさせて頂いているんですけどもなかなか届かなくて、駅とか市役所のホームページとかSNSとか色んなところで発信させて頂いているんですが、なかなか情報届かないんですが、仕組みとしては市内全域、駅から市内全域行けるようにはなっています。市街化区域と言いますか中心部については通常の路線バスが運行しています。郊外については呼べば来るような、ちょっと不便なタクシーのようなデマンドバスというスタイルがあるんですが、目的地はある程度限られるんですけども、移動できるような仕組みがあって、移動できるようにはしてあります。ほかに最近始めたのは、スマホで定期券ですとか、あまり使わない方でしたら回数券もスマホでクレジットカードで買えますので、いつでもどこでも買えて、いつでも使えるという、値段もPRさせて頂くと定期だと年間大人で2万8000円、高齢者だとその半額、1万4000円になるんですが、通常でも月に2000円＋ α 、高齢者でしたら1000円＋ α くらいで買えるようなお得な定期になっています。1点だけ、スマホにクレジットカード番号を入れるのに抵抗があるとの話を最近聞きまして、そのへんはセキュリティもしっかりしていますので是非機会があれば使って頂ければと思います。宜しくお願いします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

そうですね、そこらへんの活用というのはすごく大事になってくるのかなと思います。それでは次行きます、時間があるので、先ほどの話の中で農業体験というお話もあった中で、食農という言葉を見つけたんですけれども、24番の方、色んなことをされていると思うのですけれども。

○参加者

ありがとうございます。今回こういう意見を書かせて頂いたのは、去年の1月21日から下国府塚、美田地区のエリアで、築400年相当の旧岸邸という古民家を拝借させて頂いて、シティプロモーション施設「門善屋」をオープンさせて頂きました。そこで、レストランススペースも開業しているんですけれども、つい先週、1月21日から利用者は4000人となっておりまして、ヒアリングしているんですけれども、結構都内の方、県外の方が多く来てくれています。この田園環境都市、どういうふうに楽しんでもらえるかなというのを我々なりにも考えていまして、飲食スペースを始めたというのも、滞在時間を長くできないのかなと考えたところでございます。市内の人達にもこの田園環境都市を楽しんでもらうために、市民農園を使っている方から話を聞くと、期間が定められていて、すぐまた使えない可能性もある。やりたいけどもやる場所が見つからないという方もいらっしゃるって、また、家庭菜園をやっている方もかなり多く私の周りにもいるんですね。でもそういう人達が就農するってなかなか行き着いていないとも感じて、農地を獲得したいと言ってもハードルがある。自分の農業経験、自分で学んだものを活用できないというズレも感じる方も多いと聞いています。ですので、そういう方達が寄り集まって勉強できたり、チャレンジできるような場というのができたらいいなと思っているんですけれど、我々もまだまだ素材にうつしてない部分と、実際ハードルとして企業として取り組みないというのがありますので、そこをうまくやれる方法というのを行政の方に導いて頂くと、市民が活躍できる田園環境都市っていうのに近づいていくんじゃないかなという思いでございます。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

そんなところも考えると、市長、なにかどうですか？

○浅野市長

本当に色んなご意見があるなって思っております。

私の体験を話させて頂きますと、今私は乙女上町に住んでいるんですけれども、昭和44年に越してきまして、区画整理が大体昭和、私の家が建て替えられたのが昭和53年ぐらいでし

たので、区画整理が終わるぐらいまでの10年間近くは、間々田駅から歩いてきて、国道4号線を超えるとずーっと田んぼが続いていた中を通学していました。ですから、先ほど5番の方が言ったような、帰ってくると蛙の合唱だったりとか、冬はすごく星空が見えるという経験をきて、それで区画整理が終わり、最初はなかなか家も建たなかったんですけども、最近家はだらけという中で、家の周りの平地林もほとんどなくなったような状況になっていました。かつては私の家も平地林に囲まれていた中にありましたので、平地林の中で落ち葉が堆積されて、そこを歩くときの柔らかな感触とか今になってみると懐かしいなと。ちょっと車に乗って山に行けば今でも体験できる訳ですけども、本当に家の周りでそういう体験ができなくなっているというのが非常に残念な感情を持っています。以前は、夏なんか網戸を開けとくと、カブトムシが飛び込んで来るとかそんなことも日常茶飯事でしたし。だけど今、そういう環境じゃなくなったのは本当に残念です。まだ、小山市内そういう環境残っているところが沢山あると思うんですね。やはりその環境というのはすごく贅沢ということを感じてもらいたいなと思いますし、一旦その環境って無くなってしまうと、人間の手で再生しようと思っても、本当に何十年もかけないと再生できないということになるので、できるだけ残すということをやっていくのが非常に重要なのかなと思います。先ほどの人口を増やすという20万都市とかというのが、かつては目標にされていたとお話頂きましたけれども、私、人口の考え方というのは、人口を増やすことを目的にしてですね、それによって今住んでいる方の生活が悪くなるんだしたら、なんで人口を増やさなきゃいけないんだろうというのが基本的な考え方です。ですから、今住んでいる方達が今よりも生活環境が悪くないようにしながら人口が増えていくことについては、それは賛成なんですけれども、人口を増やすことを目的にして自分たちの生活環境が悪くなるというのは、それは何のためにやることなのかなというのがあるので、原則的な考え方としては、自分たちの生活を良くしていくということを、原則にしていけることが基本なんじゃないのかなと思っています。それと、公共交通に関してはこれから田園環境都市として都市環境と田園環境をバランス良く保つためには、より重要なことだと思っていますし、先ほども農村集落の人口がどんどん少なくなっていくということをご指摘しましたけれども、やはり農村に住んでもらうというところで交通の問題って非常に重要だと思うんですね。若いうちは車で移動すればいいということはあるんですけども、高齢化した時には、なかなか自分で運転することが負担になってくると。また、事故防止の観点からも公共交通を充実させていくことが非常に重要なので。ただ、結局負担の問題ですね、当然公共交通を充実させるためには、税金を投入しなければいけない訳で、そうすると農村集落にそうやって一定の方に住んで頂いて、田園環境を維持することが市全体にとってプラスになるんだという共通認識持てて、初めて公共交通にお金を投入していてもいいんじゃないかなと思いますので、そういう意味で言っていますけども、半分田舎、半分都会というのは小山市の魅力なんだということを、まちなかの人にも分かってもらうということがすごく重要なのかなと思いました。そんなところですよ。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

今のお話の中でも田園環境を維持していくという言葉があったと思うんです。こちらへん皆さんどうですか？田舎自慢じゃないですけども、維持していくためにこんなことをやっているんだとか、ある方いれば、どうぞ。

○参加者

私の気づきなんですけども、海外から留学生など、東京にほとんどの留学生は来ていて、小山に短期間来ると、そこで話していて、昔は小山で何を見せようかと、その時に昔は工場を見せればよかったんですよね。今は工場というのは海外に移転しているから、別に日本で見る必要はないと。じゃあ小山で何を見せようか。僕は農業だと思ったんですよ。ライスセンターとか乾燥させるようなタワーってありますよね。ああいう品質管理の良さというのは、日本は農業の世界では誇るべき技術と品質管理なんだと思います。それを申し込んだ時に、見せてもらえない。分からない。日本の食料っていうのは安全でいいんだよということが分からない。これ問題だなあと。今回も9月に来るので、じゃあ美味しい新米の握り飯でも食わせてうめえだろうってやってやりたいなと思い、農協さんに問い合わせたら、分かりませんって言うんですね。そこで一口食わせればその良さって100の言葉を使うよりも確実に伝わるのかなと。これは過去のことなんですけれど、ネパールから来た人に講演を頼んだんですよ。その方は八王子かなんかに住んでいたんだけど、今、結城に住んでいると。その方が小山の50号から見る景色を見ると自分はすごい幸せになるって言うんですよね。なんでかとその人に聞いたら、私の国ではお正月と結婚式と人が死んだ時にしか米なんて食えないって。だけでも、日本に来たら秋になると畑が米の穂が垂れて、すごい自分は米が食えるんだって幸せな気持ちになるから結城に来たって言っていたんです。ああ、全然小山に住んでいる人間にはそれは普通の景色でなんの感動もないんですけど、気づかないと良さが分からない。小山の良さというのは、うちの娘ちょっと変わってるんですよ、「お父さん、夏休みだしママチャリで日本橋まで行こう」って。日本橋まで行ったんです。これ、平坦な土地だからいけるんですよね、小山は、すごく平らなんですよ。もうスカイツリーも見れちゃう。これもすごさっていうのが分からないと全然魅力に感じない。今度はデマンドバスを制覇しようって言い出したんですよ夏休みに。デマンドバスは途中で断念したんですよ。乗り継ぎが悪すぎるって。だからそのへんの乗り継ぎも、例えば午後2時からこの会議があるっていうので、これに間に合うようにおーバスで来る時にじゃあ何時のに乗るかって言ったら8時くらいのに乗らないと、そしてこっちで待ってないと、全然なんですよ。そのへんを良く考えないとなかなか解決は難しいかなと私は思います。

○阿久津委員長

ありがとうございました。

本当に貴重なご意見だと思います。そうするとお米を食べるとすごくやっぱりという部分があるんですけども、どうなんですか？小山のお米の現状というのは。どうですか、海老沼さん。

○海老沼委員

お米の話ということで、私は生井地区で米麦を作っている農家なんですけども、今ちょうどお米は20日くらいに穂が出始めましたね。今年のコシヒカリ。それが大体5月の連休のはじめに植えたものなので、天候に随分左右はされてしまうんですけども、今、私のところは主食で作っているのはコシヒカリと無農薬のふゆみずたんぼ米。ほかに主食用の栃木の星を主に作っています。実際に炊き上がりというのはあまり変わらないと思います。冷えた時が一番よく分かります。だから私はやはり冷めたおにぎりが一番美味しい。ただ、他の人は温かいのじゃないと美味しくないと言われるんですけども、うちの子供たちもコンビニのおにぎりが大好きなんですね。コシヒカリの粘り気が嫌だって言うんですよ。だからどちらかと言うと栃木の星を好んで食べます。ただ、好みは個人個人様々なんで、農家の方は一生懸命作ってますので、自信を持って、是非小山の地産地消ということでお米を食べて頂けるとありがたいと思いますし、そこで生井地区じゃなくても、この地図を見ると農村地帯ありますので、小山市内のあちこちのお米を皆さん食べて頂いて、自分に合う米を、ちょっとくらい高くても、安心なお米ですから食べて頂ければありがたいと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

例えば、そういうお米というのは我々いざ食べようとした時、販売なんかはどこでも買えるっていう訳ではないんですか？

○海老沼委員

どこでもと言うか農家との繋がりがある人は直接手に入りますし、当然JAが一番簡単なんですけども、それはちょっと山崎さん。

○山崎輝明さん

地元のお米についてですけども、基本的には農協管内の直売所があるんですよ。JA 小山で5店舗、小山市内ですと間々田と桑地区に1店舗ずつあるのかな、そこに地元のお米があります。それと合わせまして、道の駅思川では、地元のお米ということで販売をしているという現状にはなっております。そのへんのスーパーで売っているかとなると、扱ってはないかなと思います。

○阿久津委員長

例えば、それが地元の飲食店とかで小山で作ったお米なんだよ、とかそういったのがあるとすごくいいなあと思うんですね。そこらへん、11番の方の意見も面白そうだったのでいいですか？

○参加者

私は農事組合法人ファームこうつかの加工部に在籍しているんですけども、私たちは6次産業化に取り組んでいまして、加工部では男性たちが育てて収穫したもち米を少し精米して玄米餅を作って直売所で販売しています。お米なども販売しております。体験農園という話も先ほどから出ておりますけども、道の駅思川の体験農園とか収穫祭、餅つき体験のお手伝いをしているんですけども、そこで感じることは、本来の体験ってどういうことだろうと思って、私たちがお手伝いしている体験は、ただ私たちがお餅をといて、それを杵で少しついてもらいんですけど、それを買うという。ただそれだけなので、もう少し体験ということを考えて、今、24番の方が同じ地区にそういう施設をお持ちなんですけど、その周りの環境って土地改良されてない田んぼがあったり、畑があったり、ちょっと行けばその敷地内でカブトムシが捕れたり、そういう体験がとてもしるところなので小山市の文化財にもなっていますのでそういうところで、子供たちが作ったものを食べるというのが、良い体験なんじゃないかと思うので、この体験ということをもう一度考えて頂いて、1番の方のご意見にすごく私感動したんですが、おやまっ子の未来を守る会というのを、やっていらっしゃるって聞いて私はすごく感動したんですけども、子供たちに少し目を向けて頂いて、今こども食堂なんかで食べられない子供たちも沢山いますので、一部の子供たちじゃなくて、小山市全体の子供を未来に向けて守って頂きたいなと思います。そういう子たちにも体験させたいと考えています。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

どうですか？今のお話聞いてなにか他にもご意見等ある方いらっしゃいます？ご意見というか自分の田舎自慢でもいいです。パツと見るとですね、販売という意味では今日は思季彩館の栗原さんもいらっしゃるんですけども、どうですか？今のお話聞いてみて。

○参加者

そうですね、思季彩館でも小山のお米売ってますので是非買いに来てください。実は思季彩館をやっている今農業のほうも新たに農楽という法人も立ち上げまして、この間もサツマイモの苗を植えたり、ジャガイモを植えたり東野田の放棄地を借りて今やっています。実際この間ジャガイモをやったんですけども、小学校以来のジャガイモ掘り、筋肉痛で身体がバリバリでしたけど、できたのは10万円お金をかけて2万円分。8万円の赤字でした。なんでかと言ったら、ジャガイモって掘ったら乾かしておいて、暗くしておかないとすぐ青くなっちゃう。青くなったやつは捨てるしかないという。それを知らなくて暑く中掘って、出して、出しっぱなしにしたら

ほぼ青くなって、捨てちゃいました。これが観光農園に繋がるか分かんないですけど、僕みたいな素人でも農業やってますけど、是非小山に来て頂いて、苗を植えたり、ジャガイモを掘ってもらいたい。それで青くないやつ持って帰って頂いて、家で涼しいところに置いて食べてもらったり。10月にはサツマイモを今6000本くらい植えたので 1 万本？くらい植えたので、是非好きな方は醸造場でビールも作っているんですけど、醸造場の横の畑でサツマイモやってますので、取りに来てもらってSNSで好きなだけ持って行ってもらって、掘ったやつは小学校に納める予定ですので、是非小山市民の市内の小学校の皆さんに食べてもらいと思いますのでSNSにアップします。お願いします。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

というところで他に何か、ありますか？どんどん自慢でもいいですし思うところがあったらでもいいです。前半1部あと10分くらいなんですけども、できるだけ色々な意見を出してもらって。後半戦はそれについて話し合うというところなんですけれども、何かご意見ありますか？

○参加者

自慢のほうになってしまうんですけど、私は東京のJRの駅で、川崎駅だったり、秋葉原駅だったり上野駅だったりとか、そういったところに小山から来ました、栃木から来ました小山市の野菜を持ってきました、イチゴを持ってきましたっていうところで駅に催事場所を作って、そこで販売なんかをさせて頂いております。その時にも小山のイチゴっていうのは、もちろん人気がありますし、すごく売れ行きがいい商品になります。他にもネギだったりとかハトムギ関係の食品や、先ほどもありましたがサツマイモとか。本当に小山の農作物っていうのは都内の人からしてもすごく人気があるものだなと実感させて頂きました。小山の私どもがいる絹地区で言いますと、どちらかというと硬めの土があったりとか、駅近い犬塚地域で行くと、サラサラなものだったり、西部のほうだとまた土質が違ったりとか小山って一括りで言っても、土質も全く違うようなところで様々なものがあるので、小山の農業っていうのは、これからどんどん広がりができるようなものじゃないかなと思いますね。なので、そういった農家さん、農業に興味ある若手の方々がどんどん増えていくような、そういった環境が出来ればよろしいかなと実感している次第です。

○阿久津委員長

小山でせっかく作られているものを色んなところに出してる意味では、いちごの里の小黑さんなんかは、かなりそういうところが上手にしていると思うんですけど、なにか普段心がけていることとか、こういうのやっているとかありますか？

○小黒弘征さん

SNSの発信には特に力を入れて毎日のように更新しています。いちごの里は年間でおそらく12, 3万人くらいは来て頂けるんですけど、たぶん小山市内の方よりも東京の方のほうが多いんじゃないかなと実感しておりますので、逆に私としては小山市内の人にもっと来て頂きたいというのが思いなので、そのへんを今後は強化していきたいと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

小山の方に消化してもらうというのと、日本全国の方に出すというのも非常に重要になっていくと思うんですけども、現状小山の作っているものの需要というのはどういう感じになっているんですか。実際、わかります？どれくらい外に出てどれくらいが地元の人に食われているのか、気になるかなと思うんですけども。

○鈴木農政課長

農政課長の鈴木でございます。ご指名ですので。数字的なものは出ない訳ですけども、基本的に農産物の行き先っていうのは農協さん、今日山崎課長いらっしゃるんですけども、農協さんと農協系統なんていいですけども、に行くものは卸売市場とを通してしていくということです。それから直売所でも売っています。その他農家さんが自動販売機なんかでよく売っていらっしゃるんですけども、そういうのがあります。ただ数字は他にもしかしたら分かる方いらっしゃるかもしれませんが、基本的には今は一番多いのは卸売市場を通して、京浜地区であったり、県外にいつてしまうんだろうなと言うのが多分一番多いのではないかと、私は感じているところですけども、山崎課長、分かりますか？

○山崎輝明さん

基本的に農協に出されたものにつきましては、京浜市場に出しているものが多いです。やはり、食べる量が多い、人が多いところでの物量が捌けるということを考えますと京浜市場中心に出荷をせざるを得ない。それとあわせて、うちの農協ですと東北、北は青森、西は一番遠いところで京都まで部分的に出しているものもあります。そういった中で県内もありますけども、県内宇都宮の卸売市場にも卸しております。そういった部分が大半ですかね。

○阿久津委員長

なるほど、ありがとうございます。

農協さんと生産者の人との間の関係というのはよく分からないんですけども、単純に私なんか考えるのは、小山の駅前の例えば居酒屋とか、色んな食事をするところで小山から採れた野菜を直接買ったり、ということは今の時代、何か決まり事というものもあるんですか？

○山崎輝明さん

基本的には農家が持ってきたものについては農協としては委託販売をしてしまいますので、農協を通した中で直売という形の中で部分的に業者さんに卸しているものもあります。そういった形ですね。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

すみません、ギリギリの質問になって。今日色々な方いらっしゃると思うので言いたいことも沢山あると思うんですけど、一部は残り5分くらいで、産業観光部長はそれにまつわってなんかやってたりとか、まちなかで主にそういう活動とか、思いを込めていいのがありますがですか？

○目徳産業観光部長

産業観光部長の目徳と申します。今日のスタートのところからあったんですけども、やっぱりそれぞれの田舎側と都会側、違う方面に行って初めて分かるというところからのコメントなのかなと。東京に通学してる5番の方ですね。初めて行ってそういう環境にあったからこそ地域自慢というか、今までそういうことに感じなかったのが違うところで、そういう人たちと接して変わったといいますか、そういういい風に思うところが魅力の発信の原点ではないかと感じました。それは農村側もそうでしょうし、私、産業観光部ということで商店なんかの支援もしている立場なんですけども、商店さん側もやっぱり高齢化とかですね、次がないという問題も生じているのが現状で、よくそういう声が聞こえてきます。それぞれのいいところをいかに発信するかというところがやっぱり大事なんじゃないかなと感じました。それは魅力だけじゃないしマイナス面もあると思うんですね。そういうところを含めての、ありのまま発信ということがいいのかなと思いました。あと農業関係の体験という話もよく出ておりましたけども、市役所におきましても市民農園、道の駅の裏側のほうでやっております。200区画ぐらいありまして、基本は1年契約の更新でやってるんですけども、やりたい人は空いてれば複数年度ですね。最近は応募者が多いんで連続してやるのはちょっと難しいかなということで色々な方に体験していただいて農業ということも続けてもらって、食について考えて頂こうというところにも力をいれたりしてますので、皆さん色々な声を聞きながらこれからも進めていきたいなと思っています。以上です。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

もう1人くらいできるかな。そしたら、ちょっと見てて気になって面白そうだから、15番の方、いいですか。

○参加者

私はですねテーマを見せられてから、ここに参加したくて、自分で思い切って書いたものなんですけども、例えばまちの自治会といなかの自治会が姉妹提携して子供たちで小川遊びしたり、田んぼ道を歩きながら一緒にキャンプやったりなんかしたら当然親も来ますよね、子供と一緒に。ここで小学校も違うんだし、友達という関係が出来て、仲良くなれば、自然と農家のいいところが分かって、そこで農家のちょっとしたものを買ったり、そういうことができて。我々たち老人もですね、時間持て余してる訳ですから、そこの方に行って何か色んなことに参加しちゃったら結構楽しい。知らない人同士が付き合えるような形が色んなところで、ネットワークができるんじゃないかなと思って書きました。

○阿久津委員長

ありがとうございます。

そしたら、後半戦はそこら辺も副委員長中心に話してから、佐藤副委員長も農家やってますからね、色んなお話できると思うんですけども、まあ、前半戦はこの辺にして、最後に副市長からまとめて思いを、今の流れのなかでなにか言いたいことがあれば。

○雲井副市長

私もさっき目徳部長が申し上げたように、そこに居なくなって初めて気が付くような事柄が多いのかなというような、そんな気持ちで聞いていました。私も県北のほうの出身なんですね。今思えば、学校の帰りとか空を見上げると降り注ぐばかりの天の川、小山で全然見えないんで、小山越してきてから、もう懐かしくて懐かしくて色んな所を見に行くんですけど、どうもまちの灯が邪魔しちゃって、なかなか見えないと。あるいは川で遊んだり、今日丑の日なのでうなぎだと思うんですけども、まちの中の用水堀の中には、近所のおじさんたちが漁をして捕ってきた鰻が魚籠(びく)の中に入ってるんですけど、それを逃して遊んでみて、怒られたりとか、くだらない遊びばっかあったんですけど、そういう体験ってその時はあまりにも当たり前すぎて、特に何とも思わなかったんですけども、だんだん大人になって生まれ育ったところから離れてくると、それがものすごく必要だったのかなって思っております。私が離れざるを得なかったというのは、やっぱり働く場所が田舎の方なもんですから。ここで言っている田舎とまた次元が違う田舎なもんですから、働く場所もなくて、どうしてもここへ来ざるを得なかったとというようなことだったものですから、私が今考えてるのは色んな方、いろんなことをおっしゃるし、多分これで第2部のテーマにもなってくるんだろうと思うんですけど、どうやって皆さん方に働く場を提供し続けられるかというのが、ずっと私が考えていることなんですね。

具体的にじゃあ何をやってるんだと、なかなかいい答えはないんですけども。何か取り組んでみたいになって、色んな人の知恵を職員の話なんかも聞きながら、少し考えてみようかな。何かやってみようかなと思ってるところでございます。それでそんなことを通して、特に若い方中心に都会に行かないで済むような小山市を作ればいいのかと、私に与えられたテー

マなのかなと思って聞かせていただきました。まだ答えは見つからないんですけど、今日の話
を聞かせて頂きながら、参考になればなと思っております。そんなところです。

○阿久津委員長

ありがとうございます。後半戦に向けて素晴らしいたくさんのヒントを頂いたような気がしますし、後半戦も、このまま皆さんで色んな話合いが出来ればいいなと思っておりますので。
一旦ここで、お返ししますか。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。

ここで10分間少々会場の換気のため休憩にしたいと思います。15時35分から再開いたしますので、休憩といたします。よろしくお願い致します。

———休憩———

○篠原シティプロモーション課長

それでは再開をさせていただきます。テーマ②「まちなかとの連携と活性化へ」を佐藤副委員長、海老沼委員、戎委員、壺谷委員、宜しくお願い致します。

○佐藤副委員長

改めまして、こんにちは。佐藤祐子と申します。今から8年前に東京から小山に引っ越してきました。黒本という小宅地区、小山の北の方にあります地区で、ニンジンの栽培と販売と加工品などを作っています。

今回、このお話をいただいた時に、農業という形で意見を欲しいって言われたんですけども、私は就農をしている訳じゃなくて、主婦をやったり、NPO法人の顧問をやったり半々なんですね。それで先週県庁の方からちょっとお話を伺いまして、半農半Xという言葉が業界用語にあるらしいんですけども、兼業でやられている方と専業でやられている方というのがいて、半分農業、半分エックスって言って、エックスは会社員だったり主婦だったり、そういった括りがあるらしいっていうのをこの前知ったばかりなんですけども、会場にいる方がプロの農家さんばかりで、さっきから色々お勉強させて頂いているんですけども、思ったよりも男の人が多かったのも、ちょっと小山の自慢ということではないんですけど、私の意見を一つだけ言わせてほしいなと思ったのが、今住んでいる地区というのは先程言っていた、例えば5月に田植えをするシーズンというのは、景色がリゾートのような田んぼに水が張って、鏡というか雲が反映したりとか、本当に素晴らしい景色だったり、自慢するものしかないんですが、田舎に住んでいるからこそ、消防団という消防士じゃなくてボランティアで消防団に入らなきゃいけないっていう、制度というか半強制的に入らなきゃいけないっていうものがあって。ちょうど

娘が生まれたばかりと、2歳の長女がいたときに、入団を主人がしまして、何年か前に夜、災害で出動したんですね。そういう時に、すごく夜、出動で朝まで出動したんですけど、まあ心細いと。そして「いや、今行くの！？」って、「うちも守ってほしいんだけどな～」と。こんな優しい言い方ではなかったんですけども、そういう風になって、帰ってきたらご苦労様でしたという、主人は英雄というだったり。ボランティアと言っても、年間に5, 6万は出るんですかね。5, 6万出て、出席しても出席しなくても飲み会費という謎の高額な4, 5万が出ていくっていう現状もありまして、愚痴を言うわけじゃないんですけども、素晴らしい反面、こういう見えない苦労もあるというのも知ってほしいなというのを言っちゃおうかなって思い言っちゃいました。すみません。ここからは、皆さんの意見をちゃんと真摯に受け止めて聴きたいと思います。突然ですが何か意見はありますか？このフリでは言いにくいと思うんですけども、第1部の意見だったり、自分で気になっていたことで、解決策というか、今すぐ、今日解決するわけではないんですけども、こういうのもあるよとか、こうしたらどうというのを意見交換として、聞けたらと思うんですけども、どなたか挙手を、いらっしゃいますでしょうか。お願いします。

○参加者

先程第1部の時から感じていたんですけど、どうしても専門的で皆さん詳しい方の意見が多いのと、市民フォーラムなので市民寄りの意見が出てくるのがいいのかなと勝手に感じていました。なので、一市民としてまちなかと連携というところで私も小山市民なので、私が自然と触れていた機会ってなにかかなと思うと、川沿いでよくバーベキューをやったんですね。それで、高校とかそれより先に進学した時に色んな地域から来た友達を誘うことができたんです。「小山って川沿いでバーベキューできるんだ、すごいね」ってシンプルに言ってもらって、小山のすごいところなんだっていうふうに認識したこともありまして、ひょっとして小山市に住んでいて、小山市内の自然にどういうふうに触れてますかと聞くと川沿いでバーベキューやってるっていう意見は多く上がるんじゃないかなと思います。でも逆に言うと、他にどんな意見が挙がるのかなっていうのは、ちょっと悩みどころというか心配ごとでもあって、もっと触れやすいところに自然があるんだっていうことを認識してもらわなきゃいけないし、今そうやって触れてきてもらってるものっていうのを大切にしていけないと、さっきのバーベキューの話でいくと少し治安が悪かったり、ゴミが捨てられてしまう問題があったりとか、市民が解決していけるような雰囲気になっていかないと、そもそも市民が活用したくなる、まちなかと連携できるような雰囲気ができないんじゃないかなと心配があったので、今住んでる皆さん、小山市民としての意見も聞きたいなと最初聞いていて感じました。以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。他にどなたかいらっしゃいますでしょうか？どうぞ。

○参加者

こちらの皆様のご意見のところで6番で語らせてもらってます、サンフーズ株式会社の栗原と申します。うちの会社ですけれども、メインは100社くらいの野菜の卸をやってる会社として、小山市まちの駅思季彩館の指定管理業者として西口のイベントを企画したり、まちなかの活性化に努めています。その中の一つとして、小山市の農作物の買い取りでうちは卸をしてるんですね。さっき阿久津委員長が言ったように、小山市の野菜ってどこに行ってるのかって、皆さん多分分からない。それは市場に流れて東京とかに行くんですけど、うちはトマトとかキュウリとかレタスとかキャベツとか、小山で旬で採れる時は直接生産者に伺って買い取りをして、そちらを飲食店、コロラドさんとかね、エンヤワンヤ、とり七とか色々ありますが、そういうところに卸してます。なので、小山市の中のある程度の飲食店に行けば、小山市の野菜とかお米を食べられますので、ぜひ行ってみてください。ちょっと今、話がずれちゃいますけども、小山市の買い取りをしていく上で、お米を買い取る時にどうしても規格外のお米が出てしまうとか、後は麦も作っているんだけど麦捨てちゃうんだよねとか、そういう話をいっぱい頂きまして、それをどうにか有効活用する為に808ブルワリーってクラフトビールを去年の6月から作り始めました。今日参加の海老沼さんのところも協力いただけてますけど、ふゆみずたんぼ米も無農薬で作ったお米ですので、それを捨てるのはもったいない。もしくはおせんべいとかなるかもしれないですけど、もっといっぱい飲んでもらったりいっぱい食してもらったり、もっと宣伝になったり、そういうことを考えるとビールが一番いいのかなと思ってビールをやりました。ということで可能であれば色々な人と意見を交換して、捨てないで小山市の有効な野菜とかお米とかそういうものを活用できればと考えております。是非皆様のご意見を頂いて、イチゴのビールとかそういうのも企画できますので、お声がけしてもらえればと思います。以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。今、24番の方の市民の方の意見と、業者の方の意見が、少人数で意見の交換ができる場なので、堅苦しい感じではなくて、ざっくばらんに話ができたかなと思います。委員のほうで戎さんの意見をちょっとお伺いしたいと思うのですが、

○戎委員

皆さん、こんにちは。戎と申します。宜しくお願い致します。皆さん色々な考え方で、意見が多かったなと思うんですが、そういう体験をさせたいという親御さんって多くいらっしゃると思うんですけど、その体験はどこに行ったら体験ができるのかというのは分からないと思うんですね。1番の方のイチゴ狩りという名目の、だめな熟したイチゴを採ってくださいという体験をさせて頂いたんですが、子供は熟したイチゴって説明しても分からないんですけど、それで間違ってイチゴを採ったこともあったんですが、それはダメだよってことを注意して、赤い熟したイチゴを採ると腐らないし、農家さんも困らないんだよってことを子供に教えながら体験をすることができたんですけども、体験っていう型のボランティアサポートというか、例えば農家さんで草むしりがすごく手間がかかるんですけど、高齢者問題でなかなか手が回らないと

か、そういった状況もあると思うんですが、そこで誰か助けてもらえませんかというふうに手を挙げてくださったら、そういうことを体験という形で、まちなかの人が体験できるとか、こういった身近な簡単なものから携われるようなことを考えていくと、携われることによって次のステップに繋がっていくのではないかって思うのですが、そういった困りごと、いなかではないなかで、高齢者問題で助けてほしい。まちなかだったらまちなかで、例えば、小山では花火大会があって、次の日にまちなかがゴミで荒れてしまうので、ゴミ拾いのお手伝いをしてもらえませんか、とか。そういった中で連携をとれるっていうやり方もあるのではないかと私個人の意見で考えてみました。以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。他にどなたかご意見ありますでしょうか。お願い致します。

○参加者

先ほどの消防団の話って、私の自治会なんかでも昔は青年部ですね。もう40くらいになったら退会、でもいつの間にか青壮年部になって、私は青壮年部に入ってるんですけど私もう70です。本来ならば敬老会の方に入る。敬老会は60からなんです。でも、年を追ってどんどん平均年齢が上がっていく。構成人員が無くなって。これって年齢構成下のものが入ってこない。私のところは、農村と都市の接撃部で、元々が商店街がなくなって、勤め人になってしまう。そうすると消防団って東日本大震災以前はものすごい縛りがあったんですよね。出てこにゃいかんと。市を見ていると、白鷺の大学生は良く引き込んだと思いました。あとは昔あった地元の商店主なんかそういうの入ってくると時間が自由になっていいんだけど、ダメになると地元の企業を、なにか協力してもらう、企業の社員の人のですね。あとは、ボランティアでという時代じゃなくなってきたのかなって。ある程度公共的な組織で補ってかなきゃいけない。機材もだいが高度化したようですし。ちょっと時代が変わってきているのを、旧来の消防団でまかなうところに無理が出てきてるのかと私は思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。これも後ほどお話をできればと思うんですけども、他にご意見がある方いらっしゃいますでしょうか。どうぞ。

○参加者

自分は宇都宮市に勤めているんですが、先ほどの委員の方、ボランティア参加させたほうがいいという話をされていたと思うのですが、宇都宮市のまちづくり応援事業というのがありまして、宇都宮市では各自治会とか企業さんとかボランティアを募集してまして、そこで自治会の草取りとか、そういうのをホームページにあげまして、色んな方からボランティアに募集して参加できるような仕組みがありますので、小山市さんについても小山市であうかどうか分かり

ませんが、そういう団体で出来れば、そういうボランティアに参加する人って多くなるんじゃないかなと思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。他に意見ある方いらっしゃいますでしょうか。お願いします。

○参加者

こんにちは。今、いろいろ話聞かせてもらって、すごく思ったのは農村部が抱えている根深い問題として、ネガティブに農村に住んでいる人とポジティブに農村に住んでいる方々っていうのがいると思うんですよ。親から譲ってもらった土地だから、ここに家があるから、経済的な理由で市街地に引っ越せない。引っ越したいんだけど引っ越せないという方々が自治会の中にもいて、農村地域が良くてポジティブな考えで農村に住んでいる方と。その比率が今は農業というものが自分たちの事業として成り立ってない人達からすると、やっぱりネガティブなイメージの人が農村部に多いという根深い問題があって、その人達をいかに小山市の話なんで、小山市の中でいかに市外にその方々を連れていけるかという、積極的に農村部から人をいかに抜いてあげるかが先で、その抜けた穴にポジティブな市外に住んでいて農村で子育てをゆっくり育てたいとか、そういう体験をさせたいっていう方に空き家に合った場所を提供するっていう結構大きな流れがあると、ポジティブな方はポジティブに農村に集まってくる。そういうところからボランティアとか、いい入り口、いい団体が作れたりとかする、ポジティブな意見が自治会内に広がる。そういう結構大きなマインドセット的なものが、もうちょっと市で移住、市内の移住促進とかを補助的にできる、資金なりなにかが提案できれば、もうちょっと大きく変わってくるのかなと。問題が根深いんだと思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。ボランティアだったり、そういう意見が結構今、飛び交ってるんですけども、市の方で何かやってるっていうのはあるんですかね？

○篠原課長

私のほうから、是非12番の方、村山史織さんは、地域おこし協力隊の奥様なんですけど、まなかのいえという農村部で民泊施設を運営されていますので、そちらの話を聞ければと思います。

○参加者

ご紹介ありがとうございます。夫が去年まで地域おこし協力隊をやっていたして、その延長として空き家を活用した民泊施設というのをしております。そういったところから小山市の農村地域を中心に東京のほうから、特に若い方を呼び込んでいけていると思います。先程の方

の意見も大変参考になりました。空き家になっているお宅も理由としては様々あるんですが、やっぱり高齢化が進んできてお店まで遠いとか、そういう理由ですとか、お子さんたちが小山市内から離れてしまって、もう住まないから空き家になっているとか、色んな理由があると思うんですけども、そういったところを若い人が利用できるようにしていったらいいなと思っています。今のところすごく色んな若い方に来て頂いていて、小山市内からも利用して頂けているので、進めていきたいなと思っています。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

まなかのいえの企画とかは、言ってみれば民間でやっていることだと思うんですけど、ボランティアとかで何かをしたいとか、やってほしいという募集をかけたりするのは、市とかは繋いでくれるのか。それとも自分たちでSNSを発信した方がいいのかとか、そういうのをちょっと聞きたいなと思ったんですけども、どうでしょうか。

○吉澤総合政策部長

総合政策部長の吉澤と申します。宜しくお願いします。ボランティアについては、私どもの方で直接は関連はしていませんけども、個別に道路の里親であったり、公園の里親であったり、制度ごとに農地水であったり、いろんなところでボランティアをお願いしている場面というのは行政ではあります。先程、松本さんから話があったように、まちづくり応援事業って言って、宇都宮のように大きくまとめて何かこうするとどうですか、というそういうものは用意していないのが現状ですね。ただ、地域ごとにある程度の絞った形、縦割りだと言われてしまうかもしれないんですが、そのような個別のものについては色々お願いしている分野は逆にあります。それはホームページだったり、地域に直接お願いしに行ったりっていうのはあるかと思います。以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

答えにはなってないかもしれないんですけど、今日言いたいことがあれば、皆さんおっしゃっていただければと思いますので、引き続き意見をお伺いしたいなと思います。次の方はいらっしゃいますでしょうか。お願い致します。

○参加者

話を聞いていて思ったんですけども、よくまちなかでは、家庭菜園って結構いますよね。そのやってる人って結構もう自分はプロだという人もいらっしゃるくて、話を聞くと。その中で、例えば農家で労働力がちょっと足らない時に田植えとか稲刈りとかやった時にできれば、お米もらえとか、農地の代わりにもので、例えば30キロあげるよ。1日か2日か分からないですけど、

それに見合ったものをもらって、例えばここに連絡すると、労働を提供する人と困ってる人が組み合わさって、何日かたったら野菜をもらえとか、そういうことがあると、結構僕なんかだったら参加したいなと思うんですけど、そういうふうな窓口があればと思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。非常に面白いというか貴重なご意見ありがとうございます。他にご意見はありますでしょうか。お願い致します。

○参加者

お話を聞いていて、すごく参考になったとおもいまして、私の中で思ったのが生産者側の発信する人と消費者側として発信する人と、2種類のパターンが今あると思うんですけど、私の場合は消費者側のパターン、先ほどおっしゃったように大体消費者側っていうのは都会側の人間で、田舎側の人は今日沢山来られてると思うんですけど、私はこのご意見の中で言うと15番を読ませて頂いたんですけども、5年前から市民農園に携わってまして、今年継続して借りれなくなる、ようは先ほどおっしゃっていた通り最近人が増えてきて、必ずしも希望してもできないという状況であって、ただ一方で、都会と田舎をより良く活用していきたいってことを考えると一番接点があるのってそういうところだと思います。生産者の方、どんどんアピールしてもらっていいんですけど、それがどうしても消費者側に伝わってこないのかなと。15年前、子供の頃はここにいなかったんですけど、都会部から引っ越しで半田舎に来て、子供の頃、僕神奈川の横浜でゴリゴリの都会だったんですけど、それと比べて自然と触れ合える機会って小山で少ないかなって。こっちに来てカブトムシが捕まえられたことってないんですね。見つからない。ようは場所じゃないんですよ、都会から引っ越してきた人は田舎の人と接点がないからそういう機会を増やしてほしいなと思ったのが意見です。

○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。田舎との接点ということで壺谷さんお願いします。

○壺谷委員

壺谷です。私自身小山には4年前に引っ越しをしてきてまして、今まちなかに住んでいるんですけども、私の住むマンションも3分の1以上が栃木県外から引っ越された方で、あと3分の1ぐらいは小山近郊からまちなかに来た方が多いですね。お話をしてもなかなか小山のどこに何があるか分からない、ということもお話としては聞きます。私は実は隣の栃木出身で太平山の麓で育ってきたので、それなりに自然と関わってきたんですけども、今私は栃木の高校生蔵部(クラブ)という高校生まちづくりの顧問をやっているんですが、やっぱりまちなかでの活動が多いのでそこどうしようかなって時、栃木農業高校の方と一緒にほうき作りを今やってます。ほうきもろこしというほうきのもとになる植物を植えるところから、これを育てて、今度

はそれを収穫したら、自分たちがほうきを作って、それが伝統工芸に入ってますよね。ということで、農業や福祉だけでなく、これを何か伝統工芸とか繋いでいくようなやり方も一つあるんじゃないかなというのは今日のお話を聞いて私も考えたものです。小山であれば例えば間々田ひもみたいなものもあるかもしれませんし、もっとハトムギも一緒に有名だと思っておりますのでなにかしらできるのではないかと考えています。で、一つ私もお意見頂いた中で私も目を通して頂いて、北桜高校の方のご意見もあったので、私個人としてお聞きしたいなと思いました。

○篠原シティプロモーション課長

18番の方、宜しくお願いします。

○星野一さん

北桜高校の3年です。私は小山市のまちなかで育ったんですけど、小さい頃から小山市内の駅近くで育ったので、自然に関わる機会がなくて、少なかったし、小山北桜高校に進学したんですけども、進学した理由が、小学生の頃に自然の家に参加して、自然の楽しさを知って、高校で自然について知りたいなと思って進学したんですけど、その自分が自然の家で経験したことを、今の小学生、中学生にも経験してほしいなと個人的に思っていて、今はSNSの普及とかゲーム機とか色々あって、やっぱり家の外に出る機会が少なくなっているの、そういった小学生にも外に出る機会を作ってほしいなと思って、一つアイデア出したんですけど、出したアイデアが、アメリカザリガニの駆除ということで、僕も小学生の頃にアメリカザリガニとかよく捕まえて遊んだりしてましたけども、やっぱり今私には小学3年生の弟がいるんですけども、やっぱり昆虫とかザリガニとかあまり触れないみたいな、怖いなって感じで触ってないので、やっぱり触ってほしいなと。楽しいと思うので、小学生からしたら。好奇心旺盛でいろんなことを学ぶ時期なので学んでほしいなって思って、そういうイベントを学校とか地域で自然に触れるイベントを作ってほしいなって感じました、以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。大学生から意見を聞けるという今日は素晴らしい場だと思うんですけど、他にご意見あればお伺いしたいと思います。

○参加者

先ほど高校生からの意見があって、自然と触れ合う場を小中学生にという話があったと思うんですけど、自分自身も田舎で育ってた中で、生き物調査というのを、自然により触れ合っていました。用水路に入って、手がビチャビチャになって親とかに怒られて、みたいところで育ったんですけど、そうした中でザリガニとかドジョウとかカエルとかというのはもうがっつり触れるようになって、今があるって感じなんですけど。それをまちなかの子っていうのはな

なかなか体験できてないって思うんですね。ましてやまちなかの親御さんとかも体験できてないってところで、その親子でも含めて生き物調査とかっていうのをどんどんとまちなかの子にいなかでやらせてあげたりとか、もしくは、民泊を小学生とか中学生に体験させる中で自然を感じてもらいたいなっていうのが、自分自身の考えとしてあります。ちょっと言いたいこと飛びました。

○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。ザリガニが今日はキーワードだったようですけど。

○参加者

提案が一つあって、せっかくなので、生井地区のコウノトリ交流館をいなかとまちなかの連携拠点みたいになってというのは海老沼さん難しいですかね。

○海老沼委員

コウノトリ交流館に関しては、どちらかというと行政、自然共生課でわかる範囲で。担当は違うでしょうけども。

○参加者

自然共生課です。いなかとまちなかが元気になるためには、自然から我々は美しい景色とか景観、食べ物の恵みを受けています。恵みを受けた人が自然のいなかの方に行って、足を運んでお金を落とすって地域資源の循環ができるといいなっていうのを日頃から私は考えています。生井地区で何をやったかという、コウノトリ交流館に人を呼びたい、渡良瀬遊水地を知ってもらいたいと、安達さんのお話もありましたけど、なかなかまちなかの人は遊水地のことやコウノトリのことは知らないということがありますから、その課題解決策として、まずは、足を運んでもらいたいと思ったものですから、阿久津さんに相談をして、まちなかのドーナツ屋さんですね、コウノトリをモチーフにした商品のものを作ってもらったり、あとは思季彩館の栗原さんに相談して、コウノトリラベルのビールを作ってもらったり、その商品を集めたマルシェを交流館で開催したり、交流館を使ってまちなかの地域おこし協力隊にバーベキューをやってもらったりっていうのを今、始めているところです。こういう行政だけではなかなかできないことが沢山ありますから、小山にいらっしゃる色んな人たちと一緒に生井地区であったり、いなかの盛り上げができればいいなって考えてるところです。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

ここで知らない人同士がこういうのをできたらいいなっていう提案とかも、詳しくは時間の問題でできないんですけども、そういうのがあったらっていう意見を。

○参加者

先ほどの5番の方の意見で小中学生のいなか体験を民泊施設でやるっていうのはとてもいいなと思いましたので、ちょっと計画したいなと思います。私たち民泊施設をいなかで運営してますけれども、あんまりいなかの環境とか生き物に詳しくないんで、ぜひそういったところを小学生に説明するようなお仕事を一緒にできたらいいなと思いますので、後でお話しさせていただきます、以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

こういった意見もぜひ聞きたいと思いますので、先程の方、ご意見お願いします。

○参加者

私は未来を考えた時に、今ここに来てるのは、ほとんど高校生が一人、大学生が一人で、ここに参加された方素晴らしいと思うんですけど。若い人達が小山の将来を考える会、そういう人が柔軟な発想の中で自分たちの未来をどうしたいかっていうのが大事だと思います。子どもにいかに興味を持たせるか。一つは渡良瀬遊水地。ここで私よく渡良瀬遊水地を見ると、イギリスの湖水地方でピーターラビット。その作者がヘレン・ビアトリクス・ポター。この方が黙っていたらすぐ管理されちゃうと、だからその印税をもって、土地を自分で買って、それを最終的にはナショナルトラストにやって。これをみんなに真似しようって言わなくて、渡良瀬遊水地を認識してもらうのに、子供たちに渡良瀬遊水地で生きてる生き物の物語。例えば、チュウヒの夕日として、チュウヒの子供がどっかへ飛んで行って、カラスと仲良くなったとかそういう童話的なもの。そういう発想の物語ができて、それを募集してコンテストみたいのやって、優秀作品にはその物語を簡単に製本して、みんなに読ませると。そういうような物語を通じて、説教臭くなく、重要性を子供たちが認識できるといいなって。それから私は元々おやまっ子なんですけど、私は第二中学校に行ったんですよ。第二中学校で昔やってたのは春の遠足。小山駅に集合して間々田駅までJRで行って、そこから当時赤麻遊水地って言ったんですけど、赤麻遊水地まで歩いて行って、そこでお弁当を食べて、第二中学校まで歩いて帰ってくる。それはすごい私のなかで印象に残ってるんです。農村部をみんなでダラダラ歩いて帰ってくる。学校のほうでもそういうやり方を、安全面で危ない危ないってのもあるかもしれませけど、あるんじゃないかなと思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。海老沼さん、なにかご意見ありますでしょうか。

○海老沼委員

皆さんからいろいろなご意見、大変参考になります。今回このまちなかとの連携活性化という議題をやって、私どうしても生井地区に住んでますので、小山市のどちらかというところ農村地帯。そういう環境の中から自分の地元でこう感じていることをちょっとお話ししますと、私は地元で農家をやり、ずっとそこから外に住んだことがないです。でも地元はやはり好きですし、居心地がいい。やはり今地域に住んでる若者というのが地元が嫌いだっていうのも耳にします。できれば早く出ていきたいと。こういう色んなしがらみがあったり、環境はいいんですけども、やはり人間関係が今特にとりにくいというか、コミュニケーションをとる能力も多分、昔の人とは違ってきている。地域にいてももう頭ごなしに何が何でもとか言われる。今言った消防団もそうですけども、住んでるような半強制的、やっぱりそういうスタイルが馴染めない。地域で色んなお祭りも無くなり、色々話をして、少しずつ始めたりはしてるんですけども、最近言うお祭りではないんですけども、今言った栗原さんの協力を得て、交流館でマルシェをしたり、また、その裏の土地を利用してバーベキューをやったり、一応地元として私は数名と参加したんですけども。そこら辺を含めて、生井地区の方来てると、何か意見等あれば。

○参加者

何かお話の流れでこっちきそうだなと思ってたんですけど。1部からのお話の流れから来ると、やっぱりいなかは、地元は一回離れてみると、その良さが分かるってところがグッときますけども、自分の場合は生まれの育ちも生井地区なので、残念なことに生井地区の良さが分からないまま大人になってしまいました。ただ、大人になってから遊水地をはじめ、いろいろな周りの方からご指導いただきながら大人になるにつれて、色々な生井地区の地元の良さが分かってきたような気がします。やっぱりもう自然の中のいなかで当たり前で暮らしてましたから、大人になって気が付くんですけど、凄い魚取りがうまかったりとか、カブトムシ、クワガタ捕り、ザリガニ捕りがすごく周りのお父さんたちよりもうまかったりとか、虫の動きが分かるんじゃないのっていうぐらい、そういうのが得意だったりとかしたんですが。若い人が離れていって高齢化がっていうところで根深い理由があるんじゃないかなっていうお話の中でも、これは生井地区に当てはまるお話かなって思ったんですけど、消防団だったりとか、本当に作り話じゃなく、一時期消防団に入りたいから、消防団の順番が来る前に地元を引っ越してしまうっていう時代が続きました。そのままではいけないなって思いながら、自分も消防に入ったんですけど、やっぱり先輩である人の風習とか古いものを直そうっていう気があまりなくて、自分が卒業するころにはそういうのをなくすようにしました。ただ、生井地区って凄く今思うとその可能性が色々ある地域ではあると思いますので、うまくこれから皆さんがいい意見をだして頂いてうまく議論ができればと思います。ただ、すごく感じるのは生井地区、農村部どこでもそうだと思うんですが、閉鎖的で今まで通り何もなくて過ごす、運営するっていうのが基準になってますので、新しい動きを取るのがどうしても苦手な地域だと思いますから、うまく行政さんとか色々な機関で上手に、舵取りてこ入れをしてもらって、凄くいい方向に運営できるかなと思ってます、以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。行政の方に意見を伺おうかと思うんですけども。

○目徳産業観光部長

産業観光部長の目徳です。さまざまな意見、興味深く聞かせていただきました。どうしても農業の関係が多いかな、もしくは自然環境ですかね。与えられた環境との体験談的なところが多いかなと感じるところであるんですけども、前半の話にもあったように、農村の地域の根深さっていうのは、地域としてやっぱりあるのかなと感じます。そこは都会と違って、私も実は小山市生活3年目に入ったんですけども、それまで都内に住んでおりました。その時にはなかったような現象というか、そこまで地域のこと知らなかったのかもしれませんが、消防団ですとか、地域の祭りとか新しく参加するという逆な立場で都会で過ごしてましたので、そこまでの地域のつながり的なところはやっぱり希薄だったなと思います。特に小山においても市街地と農村部はやっぱりその地域のつながりっていうのがすごく強いんだなっていうのは前半を通して感じました。それに対して、市がどのようなことを知るかと言われても、なかなか一言で言える状況ではないかと思うのですけれども、それぞれで良いところ悪いところはあると思うんですね。自然に若い人は農村地域から出ていくという流れになっているかと思うのですけれども、逆に興味を示している人もいるというところで、そのあたりを発信しながらどう受け止めるかという、初めての体験するということは、凄くいいことだと思うので、ザリガニ触れなくても、触れるようになったっていうのは、それはいいことだし、触れない人も別に触れなくて今まで困ったことないんで。だけど違う経験をやってるはずなんですね。そのあたりはお互いを認め合いながら、両方が高め合うことができたらなと。人口は減っていくので、そこは難しいなって思います

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

他に今のテーマではなくて話の流れではなくて、偏ってもいけないと思っているので、他に違う意見も、言いづらかったら全然言っていただいて。お願い致します。

○阿久津委員長

すみません、委員長という立場で。今のお話を聞いていてすごく色々なお話が聞けて良かったなと思うんですけど、先程の生井地区でのお話もそうですし、今まで当たり前だったことっていうのは今でも当たり前じゃなくなっているところって凄くあると思うんですね。例えば3年前に出てきたウイルスによって色々なことが変わってきた。その中で変化に対して恐れないで対応する能力というのが凄く必要な時代になったと思うんです。だからこれから変えるんだったら、きっと今この時期が凄くチャンスの時なのかなっていうのは私も逆に思いま

すし、現に色んなところで3年前、じゃあパソコンで会議するのが当たり前だったかって言うと、全くそんなことは当たり前じゃなくて、むしろ今でもパソコンで会議してるってことが当たり前にもなってきましたし、その凄い対応していく能力っていうのが物凄く今は必要になってくると思うんで、そこらへんというのは何か新しくできるようなことがあればいいのかなって思うんです。例えば先ほどからボランティアっていうお話がたくさんこれまで出てくるんですけども、例えば、農業をやってる方達がどういうボランティアをまず求めているのかっていうことを我々が知れば何ができるし、勝手にボランティアボランティアって言っても実際やってもらったら迷惑だったっていうこともなりかねないと思いますし、例えば田んぼの時期、ド素人である私達まちなかの人たちが何を手伝えるのかなとか。こういうことだったらやってほしいっていうのももしあるようだったら、まちなかでも農家の人でも教えていただければいいかなと。すみません、ありがとうございます。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。他にご意見はありますか。お願いします。

○参加者

小山市青少年クラブ協議会の篠田と申します。大谷地区でトマトを生産しています。この意見の3番の質問をさせて頂きました。生産緑地制度に関して意見を聞きたいと思います。一カ月ぐらい前に下野新聞で今年度から宇都宮市で生産緑地制度を導入したということで、市街化区域にある農地の固定資産税を調整区域と同程度にするって言う制度らしいんですけど、私は大谷地区の小松製作所のすぐ隣でトマトを生産しているので、固定資産税が高くて周りの農家とかも結構離農したりして、周りが宅地、アパートとかが多くなっちゃったんで、この市長の掲げる田園環境都市が、市街化区域内の農地に関しては、どの程度考えているのかはちょっと分からないんですけど、こういう制度が入れば市街化区域内で農家やっている人も今後続けたいのかなと思い、提案させていただきました。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。これはちょっと。

○村上都市計画課長

都市計画課の村上でございます。貴重なご意見ありがとうございます。まず、生産緑地がどういうものか、皆さん分からない方もいらっしゃると思いますので、御説明を差し上げたいと思います。お手元に小山市域の図面があると思うんです。市街化区域と市街化調整区域って書いているところを見ながら話を聞いて頂きたいと思います。生産緑地っていうのは、都市農地ですね。この小山市でいうところの色が付いている市街化区域の中に存在する農地について、良好な生活環境の確保に効果があるということで、制度を活用するとすれば、計画的な

都市計画で計画的な保全をしていくというような制度になってございます。ただ、小山市ではご指摘いただいた話につきましては、現状活用にはまだ至っていない状況でございます。新聞報道でも、宇都宮市の話が出ていたかと思います。宇都宮市の話ですが、先に説明さしあげました、市街化区域へという小山市域の図面を見て頂きたいんですけども、この市街化区域を小山市は居住を誘導する区域として、全域を居住誘導区域に設定してるんです。宇都宮の場合は、市街化区域の50%半分ほどに居住誘導区域というのを絞り込んでございます。居住誘導区域でない市街化区域、要はコンパクトにまとめた人が住むところを誘導している地域の外側に、こういう農地を保全していくというような取り組みに着手したということでございます。小山市との調整区域とちょっと違うかなというところもあるんですけども、この制度の内容といたしましては、30年間農地として営農することが義務づけられるということと、農地以外の利用ができないということですね。先程お話が出てましたとおり、農地としての課税が適用するか、納税猶予の制度が適用されるというような形になります。宇都宮市の場合は、その条件に付加しまして、ようは農業従事者が60日以上従事することであったりとか、また60歳以上の農業従事者がいるというような条件がきちっと加味した中で、適正であると認められれば都市計画で位置づけていくという形になるのが宇都宮市の制度だと思います。小山市は、市街化誘導区域全域を居住誘導区域、人に住んでもらう区域というような設定をしているっていう取り組みを進めているところでございまして、現状では、生産緑地の活用にはまだ至っていないというところでございます。以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございました。

ちょっともう一声ほしいなと思うのは私だけなんでしょうか。市長、お願い致します。

○浅野市長

田園環境都市ということ考えた時に、農業の果たしている役割が非常に重要だということとは、それを前提としているわけなんですけれども、小山市の中で今、市街化区域と調整区域というふうに分かれているんですが、市街化区域の中の緑地とか、そういうものをどうしていくのかということで、例えば農地もたくさんありますし、平地林もたくさんあると。市街化区域、居住誘導区域でみんなもう平地林伐採して宅地にしちゃっていいのか。そして農業をやってる人が、税金高いからということでとても農業できないよって言って、みんな宅地化しちゃっていいのかという、そういうところはしっかりとこれから考えていかなきゃいけないんだろうと思います。私さっき冒頭でお話したように、自分の住んでるところを土地区画整理されて、現状は本当に家だらけになってますけれども、区画整理終わって10年以上の間、本当に平地林もいっぱいありましたし、農地もいっぱいありました。その時の環境と今家だらけになった環境と比べた時に、もう少し残ってもよかったんじゃないかっていうのが、本当に私自身の実感なんです。ですから市街化区域だからといって全部家並にしちゃっていいのかということ

では決してありませんし、そのまちなかでのオープンスペース緑地、緑地だけじゃなくて当然農地も含まれますけど、まち自体の魅力をつくる素材なんだと思います。そういう意味で、今ちょうど都市づくりのマスタープランとか農業振興計画とか生物多様性行動計画とか、環境基本計画もそうですけども、策定改定しているところですし、また、田園環境都市ビジョンをやっている中で、バランスのとれた住み良いまちをどうやって維持していくのかというところで、必要なことをきちんとやっていきたいなと思っています。それと、小山市の場合は昭和の大合併だったんですね。平成では合併なかったんですけども、昭和の時には本当に旧小山町の周りにいっぱいあった農村部の町が合併して、今の小山市になっているわけで、それぞれ地域に貴重な特徴があったわけです。昭和の大合併からもう50年以上経ってきた中で、だんだん地域の意識がなくなってきた、ボヤっとしちゃう感じがするんですけど、実際住んでいるところというのは、限られた生活圏ということで考えていくと、小山の南端のほうに住んでる人が北端の地域ことよく知ってるかというところ知らないわけで、やはり自分の住んでいる周辺のところっていうのが、自分たちにとっても生活拠点だと思うんですよね。そういう生活拠点がこれからどうなっていくんだろうっていうようなことが、分からないまま生活してるっていうのは非常に将来に対する不安というか、そういうものを招いているのかな。特に農村集落部の人はいくらからどうなっちゃうんだろうというところでは、非常に不安を抱えながら生活してると思うんですけども、繰り返し言うてるように、そういう農村集落が小山市にとっても魅力の大きな要素であるときには、そこがどうなるんだろうみたいところを、きちんと共通認識として持ちながら、まちづくりをしていかなきゃいけないと思ってます。田園環境都市ビジョンの関係では、風土性調査ということで地域ごとに、その地域特性、そこに住んでる住民の方がどういう意識を持ってどういう風にこれからやっていきたいのかっていうところで調査しながら、地区ごとに将来像が描けるように。そして、その地区ごとの将来像を共有して、小山市全体をどうしていくのかということで、30年後ぐらいの2050年度ぐらいの小山市をどうしていくのかというところを田園環境都市ビジョンとしてまとめて、その下に総合計画とか、個別の計画とか、そういうものが位置づけられるようなものにしていきたいなと考えています。そういう中で、各それぞれの方が住んでるところがどうなるんだろうってなるところをしっかりとイメージできるようなまちづくりをしていきたいと思いますし、その時に先程おっしゃっていた方が、自分のところでちゃんと農業ができるのかできないのかということも、ある程度しっかりとイメージできるような形で進めていかなければいけないのかなと。そのためには、各地区がもっと交流をすることがすごく重要で、自然がどこにあるのかよくわからないとか、イベントとか何かについても、どこにどうやって情報を求めたらいいのかっていうようなところで、なかなかうまく今は意思疎通ができてない、情報が伝わってないようなところがありますんで、そこら辺をある程度行政がカバーをして、民間の人同士のつながりがもっとよくなるような、そういうことも考えていかなきゃいけないかなと思いました。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

今は意見を言う場として、直接答えは出ないかもしれないんですけども、一意見として記録はしているので、ちっちゃいことであれ、大きいことであれ、皆さん時間があるので言っていたらと思います。お願いします。

○参加者

大谷地区で農家見習いをしています。自分は5年前に小山に戻ってきて、元々は都内で働いていたんですけど、すぐには就農しなかったんですけど、近くで働いていて、周りの方から家で農家をしているけど、外から見てビニールハウスが何軒か建っているのは知っているけど、中で何を栽培しているのかまでは分からないとか、小山市の観光で調べた時にもなにも出てこないとかっていう話があったので、市役所の方へのこういうのがあったらいいなという意見なんですけど、頂いた都市計画区域みたいな小山市全体の地図に農家さんとボランティアさんを繋ぐマッチングサイト。この地区のこの部分で農家さんがこういうものを作っていて、ちょっと人数が足りていないのでボランティアのマッチングサイトと。そういうのがあれば、観光で出てこなかったとしても、こういうところでトマトを栽培しているんだとか、小山市って酪農があったんだとか、イチゴはこういう場所に点在しているんだとか分かると思うので、観光と農家とボランティアを繋ぐマッチングサイトって形で作ってもらえませんか。お願いします。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

今の時代はマッチングサイトなんですね。そういうのを市のほうにお願いしますというふうなご意見があったのですが。

○阿久津委員長

すごくいいですね。もしそういうサイトが立ち上げれば、参加は多分お年寄りの方でもできると思うんですよ、やり方さえ教えればね。それはすごくいいです。ありがとうございます。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。何人か手を挙げて頂いたんですが、お願いします。

○参加者

前半でお話させて頂いたように私は埼玉から来た人間なんですけども、ザリガニで申しますと、私が住んでいたところは、赤くて大きいザリガニのことをマッカチンっていうんですね。ただ、小山に来てマッカチンっていても誰も通じなくて、35年生きてきてマッカチンって方言だったんだって初めて知りました。最近びっくりした次第なんですけど、マッカチンは正直どう

でもよくて、議事録も残さなくて結構です。お話したいのが、先ほどお話あった交流についてなんですけれども、私はそういった農業だったりとか、スポーツ、野球中心に梁地区だったり絹地区の方で、若者も大学卒業してだったり高校を卒業して、若手のメンバーが新しく来てくれる、メンバーがすごく多いんですけれども、どうしてもスポーツが中心となっているので、残念ながら1, 2年で引退してしまうメンバーっていうのがあるんですね。そういったメンバーも引退したから、小山を離れるっていうのは寂しい話なので、長く小山に根付いてほしいと思っています。ただ、やはりどうしてもいなかだからっていうのもあれなんですけれども、周りとの交流っていうのが正直、なかなかなかったりとか、周りの人からしても正直閉校になった小学校で何か野球やってるなって、なんか野球やってるぞ、なんかよく分かんないけどとりあえず野球やってるんだっていうのが印象だと思うんですね。そういったところもより交流を増やしていきたいので、結論で言いますと若者の交流できる場所、そういったところとかもいなかだからこそ地域だったり、行政とかと連携しながらこういったところを作っていければっていうのを、ちょっと今までの話聞いた中で思ったところではあります。是非そういったところも御検討いただければと思いますので、よろしくお願いします。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

行くところのマッチングだったり、遊べるところのマッチングっていうので今のは、この二人がマッチングした感じといったらあれですけど、また終わった後にお話しいただければと思います。7番の方、お待たせしました。

○参加者

私は中地区で農家をやっているんですけど、四月から農業法人立ち上げて、今サツマイモを作っているんですけど、先ほどボランティアとかっていう話は出てるんですけど、農家の人に聞くと、なかなかボランティアって求めてないんじゃないかなって。一部就活とかそういう時はボランティアほしいなって時もあると思いますけど、農家のある人に聞いたんですけど、刃物を持たせてケガしたらどうするんだって。というんで、それからボランティア取りたくないっていう人がいるんですね。まあ、そういう人來なきゃいいなって思うんですけど。そういう人もいて、なかなか意外とボランティアとか農家の人は求めてないんじゃないかと。ただ、10年後を考えると、かなり農家の人が高齢化していくのに対して、今の田園環境を維持するのってすごい大変だと思うんですね。そうすると、やはり農業法人みたいなものが、立ち上がって入っていくしかないのかなって気はしております。そして今、もしボランティアに何ができるのかっていうと、一番は小山の農産物を食べて頂くっていうのが、一番のボランティアじゃないですけど、それが一番なのかなって思います。できれば地産地消、これは私だけじゃなくて消費者の方にも意識していただければ、少しは地元の小山の田園環境を維持できるのではないかと思いますので、そのへんもちょっと考えて頂きたいなと思います。以上です。

○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。他に手を挙げてくださった方、お願いします。

○参加者

職場が都内にありまして、4年前に小山に引っ越してきて、駅前から都内に通勤しています。今日、いなかとまちなかっていう話が出てますけども、小山市でまちなかって考えるというのは駅前だけじゃなくて、都心部を含めたまちなかの考え方っていうのが重要なのかなと思ってます。いなかをどう活性化させていくかっていうところで、定着させるところって結構ハードルが高いのかなって今日お話し伺って思ったんですけど、いなかの方々の具体的な収入とものをどうやって増やしていくかっていうのが一つ目は大事なのかなと感じております。そのためには、観光として都内の人たちはどう呼び込んでいるのかっていうのが重要なかなって思っていて、今日伺っていると色々な体験施設であったり、スポットってあるんですけど、なかなか小山の中に住んでいないと伝わってこないっていうのがあるんで、これはある程度強制的に回れてというかそういう仕組みが必要なのかなって思ってます。私は小山に来る前は某両毛地区に住んでいたんですが、そこはバスツアーで強制的に色々なスポットを回らせる、午前中は厄除けをして、お昼ラーメンを食わして、知らなくても全部スポットを回っていくんですね。なので、そういった形で市でモデルコースを作ってもらうとか、色々なスポットをつないでもらうというのをやると、知らない人でも回れるのかなと思います。あと、生井地区の話が出ていましたけども、今生物多様性の重要性が高まっていると思うので、最近上田市のぶどう農園をやっている方から聞くことがあって、ぶどう農園をやっていると収穫しながら生物多様性がすごく高まっていく結果が出ているらしくて、そういうのをコウノトリの話と絡めて発信してもらえると、そういうところに意識を持っている方って最近コロナ禍以降増えていると思うのでそういった方々も増えるのかなって思います。

○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。時間があとちょっとなので発言したい方、お願いします。

○参加者

栃木県で女優として活動してます。私は多分、皆様に比べて少し人生経験は浅くて、年代も20代ということで下のほうなんですけど、その視点で今、私自身も20年以上小山に住んでいて、今日のお話の全てに共通する課題としてあるのかなって思った所が、いろんな魅力だったり、課題だったり、これもっと知って欲しいなって部分が知られてないっていうところに、課題があるのかなって個人的に感じていて、この課題を知らないからみんな東京に行っちゃったりとか都会に行ったりするんだらうなっていうふうになすごく思っています。ただ、その課題を具

体的に改善する方法として、資料の18番を提案させて頂くんですけど、私は動画がその手段になるんじゃないかなっていうふうに思っています。これも若者視点なのかなって思うんですけども、特に動画の中でもドラマだったり映画が、すごく有効な手段なんじゃないかなと思っていて、ドラマとか映画ってどの地区にいてもどの世代でも共通して観るものだと私は思っているので、今日すごくたくさんの方から、こういった魅力的な場所がありますだったり、こういった魅力的なものがありますというのを聞いたので、そういったものをドラマにすることで発信していくことで、すごくたくさんの方に知っていただけて、きっかけになるんじゃないかなってという提案をさせて頂きます。例えば、動画でそんなことできるのかなって思うかもしれないですけど、今具体的に私は、とちぎまち映画プロジェクトというプロジェクトをやっていて、栃木県の魅力的なもの、場所だったり、空間とかを映画にして、発信して、翔んで埼玉のような大ヒット映画を作ることによって発信していくというような企画をやっています。その他にも農業とかイチゴとか魅力的なものが沢山あると思うんですが、例えば、都会でブラック企業に勤めて、満身創痍になった方が、イチゴ農家で再起するなど、とても知るきっかけにはなるんじゃないかと思ってるので、是非栃木の小山市で魅力的な場所だったり、ものだったり持っている方に協力いただけたら、すごく嬉しいなって思います、以上です。

○篠原シティプロモーション課長

私の方からご紹介で、今話していただいた、入り口のところポスターをご本人からお借りして貼らせて頂いて、翔んで埼玉と一緒に作りませんかという、今クラウドファンディングをされてるってことですので、もしご興味ありましたら、QRコードもありますので、ぜひ活動に賛同してもらえればと思います、以上です。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。すみません、お隣の方。

○参加者

すごくいい意見を言っていた後なので少し喋りづらくなっちゃったんですけども、今まで出てなかった切り口の意見として私のアイデアがあります。まちなかに住んでいる人たちが農村部に住んでいる人たちに感謝をできるような仕組みみたいのがあるといいのかなって思っているんですね。今、カーボンニュートラルってすごく叫ばれてると思うんですけど、CO2の排出削減にすごく取り組んで、二酸化炭素を出さないまちづくりをしようみたいなというような切り口をしてところが栃木県内にもすごく多くあります。田園環境っていういろいろ学説あるんですけども、例えば、田んぼに対して有機堆肥、稲わらとかをすき込んで混ぜていくと、そこに炭素が付着されるっていう考え方があるんですね。つまり、炭素、空気中にあるCO2を削減しているっていうふうにも言えるんです。我々はまちなかに暮らしていて、やっぱり小山市、車がないと生きていけないっていうふうな意見があった時、自分たちが二酸化炭素を排出

してるっていうふうな感覚、みんなどれだけ持ってるかなと思うんですけど、それを農村部が小山市は吸収してくれている、改善してくれているというふうなPRができると、小山市としてもその環境側面に力を入れているとつながるだろうし、都市部に住んでいる人たちも、農村があるから我々クリーンなまちづくりが出来ているんだ、というふうな認識を持ってもらえるんじゃないかなってふうに思ってます。こういったアイデアもあるってことでお話をさせて頂きました。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

今、ご発言を聞きまして、是非QRコードをクリックして頂ければなと思いました。あと時間が、一人か二人になってしまうんですけども。ご意見ある方お願いします。

○参加者

これは、やってるかもしれないんですけど、一応聞いてみたかったのが、地元の農業の話になっちゃうんですけど、農産物を食べたり売ったりする時に、地元に戻元できる税金のマップというか、例えば茨城のものを食べた時に、僕らが使ってるお金から、僕らに戻ってくるお金って多分0だと思うんですけど、例えば栃木県のものを食べれば、僕らは税込として一応還元できている差額っていうのはあると思うんですけど、小山のものを食べた時に小山の人の売り上げになるわけじゃないですか、その売上になったところから税金を農家の人が払って、地方に降りてくるっていう。この教育が小学校から中学校ぐらいの段階でできてれば、地元のものを選んで食べることが、値段は同じものが並んでた時に、小山のものを取った方が得だっていうのがちゃんと教育に根付いていけば、すごいいい環境になるのかなと。やってたらずみません。以上です。

○佐藤副委員長

やってないと思います。これは、すごいなと私は未知なので思ったんですけども、副市長、お願い致します。

○雲井副市長

今の話ですか？多分、今の話ってすごいように聞こえるかと思うんですけど、構造上そういうふうにはなってないんだと思うんです、仕組みが。農家の方が一生懸命働いて収入を得ていただいて、それを税金で、それが全て税金かというところでもないですね。そこがちょっと一番ミソなものですから、確かに地元のものを食べていただければ、地元の農家の方に還元できるというところについては、教育のし甲斐はあると思うんですけども、その先に税金が地元に戻ってくるというのはなかなか言い切れないものですから、そこまでは、地産地消ということで、地元のものを食べて、地元の農家の方、生産者の方を応援しましょうと。先ほど磯山さ

んがおっしゃったみたいに、地元のものを食べれば、輸送費とか、かからないわけなんですね。ですから、それがカーボンニュートラルに繋がっていくんだとか、そういうような視点からいろんなPRができればいいのかなって思いながら、今聞かせていただきました。

○佐藤副委員長

私は市民フォーラムの時に副市長に無茶ぶりをしちゃうんですけど、今回はそれですね。ありがとうございます。他にご意見がある方お願いします。皆さん、言い尽くしたでしょうか。

○篠原シティプロモーション課長

ご協力に来て頂いてる荒井さん、なにかございますか。

○荒井聡さん

いなかってということで、農業の話が多くて、農業に携わっている私たちとしては、大変嬉しかったんですけど、いなかで抱えている問題ってのは農業だけでなく、先ほどもでてましたけど、各自治会にある伝統的なお祭りとかそういうのもたくさんありまして、そういうのが、だんだん参加者がいなくて、人がいなくてできなくなってきたっていうのがあるので、やはりそういった伝統的なお祭りとかにも家族で行こうとか、子供たちで学校の課外授業みたいなので、そういった取り組みと動画とかをお祭りとか、地域のイベントとかを動画とか映画で発信してもらって、いなかにも足を運んでもらえるような仕組みというのがあったらいいんじゃないのかなと聞いていて思いました。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

荒井さんは以前お伺いした時に草むしりのボランティアの話もお伺いしたんですけど、それは今日結構議題に出てきたんですけども、どうでしょうか。

○荒井聡さん

やはり高齢化が進んでいて、用水路とかの草刈りとかも人手不足で、8月なんてすごい暑い時期で大変なんで、草刈り機とかそういうのを使うことはないかもしれないんで、ちょっとした鎌とかそういうのでツルを切ってもらおうとか、そういったボランティアとかももし出来たら、高齢化が進んでいるいなかとしては助かるんじゃないのかなと。そこで、11番の意見とかもありましたけど、ちょっとお昼をふるまってみたりとか、そういった交流のしかたもあってもいいんじゃないのかなって思いました。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

いろんな面でマッチングだったり、今のボランティアだったり、農業体験だったり、遊ぶ場所だったりの情報共有っていうのはうまくできればなっていうのは今日キーワードでした。他に
ご意見ございますでしょうか。

○荒井聡さん

やっぱり西にも東にも桜の名所がいっぱいあるんで、そういうのも知らない人いっぱいいる
と思うんで、それもどんどん発信して行って、足を運んでもらったらいいなと思います。

○佐藤副委員長

素晴らしいご意見ありがとうございました。

○阿久津委員長

確かに先ほど言った、地元の伝統的なお祭りとかっていうお話というのはあるんですけど、
私も実は妻に、妻は長野県の出身なんですけど、小山っていろんなところでちょこちょこする
祭りがいいよねって言われたことがあって、確かに盆踊りとかっていうのはたまにあると思う
んですけど、そうやって考えてみると、いろんなところでそういう伝統的なお祭っていうのは、
どうしてもその地元のその人たちだけでやってるイメージもあったり、私なんかも初めて聞
いたところもあるので、そういうのも本当に経験でSNSもありますし、先程のマッチングって
お話もあるし、今後をシェアしてって、誰でも参加できるような形にしていければいいのかな
と。あまりにも人が来ちゃうと問題なところあるかもしれないですけど。はい、ありがとうございます。

○佐藤副委員長

他にご意見がないようでしたら、一旦事務局にお返ししたいと思います。大丈夫そうですか
ね、お願いします。

○篠原シティプロモーション課長

それでは本日は、長時間にわたりまして、貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございます。
それでは、これでテーマ②まちなかの連携と活性化を終了致します。時間も5時に近づいてま
いりましたので、最後、閉会に当たりまして、浅野正富市長にご挨拶をお願いいたします。

○浅野市長

本当に皆さん長時間、貴重なご意見ありがとうございました。皆さんの意見を通して一番大
きく感じたことは、私たち小山市民なんですけれども、小山のことを本当に知り尽くしてい
るっていう人ってそう多くないんだろうなと。やっぱりまちなかといなかの連携というような
ところでお話してみて、初めてそうなんだと思うようなことが多かったのかなというところで、も

っと、もう少しお互いのやってることをその地域の祭りとかも含めて、そしていろんな地域の抱えている問題についても、お互い知り合い、共有するってことがとても重要なことなのかなと思いましたし、先ほど強制的にまちなかを回るようなことも必要なんじゃないかというご意見も出てましたが、私はこの間、摩利支天塚・琵琶塚古墳と寺野東の遺跡に行ったんですけども、私もしっかり施設を見て、見学するというのは初めてだったんですね。本当に両方とも素晴らしい施設なんですけれども、決して利用者は多くないということで、なかなか小山市民が地元の施設に行く理解があるのかというと、なかなかアクセスもあんまり良くなかったりするもんですから、なかなか行けない。そして、行ってもきちんとか案内していただける人がいないと、その価値というのは、なかなか伝わってこない、分からないっていうことがあって、この2カ所の立派な施設を見た時に、例えば市内でも季節のいい時に、市内ツアーじゃないですけども、この2カ所以外にあと1, 2カ所、半日とか一日とか、今コロナでバスツアーは難しいのかもしれませんが、そのコロナがある程度落ち着いた時期にバスツアーをやってみるとか、そういうこともあるんだろうし、また、農業体験なんかについても、市民農園の区画が少ないという問題もありましたけども、本当に各農村集落の中で農業体験ができるような仕組みというものを作っていく必要もあるんだろうと思います。なかなかボランティアが農業できるのか、という問題あるかと思うんですが、私、県の東部、茂木の石畑の棚田っていうところに十数年以上通っているんですけども、草刈り機だってみんな使ってますし、耕運機なんかは都会から来た人が動かしたりとかっていうので、かなり技術的に習熟するような方が、もう何年もやってるということであって、農家からすると素人が何できるんだろうかって思えるかもしれませんが、非常に先ほど市民農園のプロのような人もいらっしゃるってお話がありましたけれども、農業自体は日本人にとって、農耕民としてのDNAがありますので、結構夢中になって、技術を高めて、半プロみたいな方も多分何年かすると出てくると思いますんで、これからの農業の維持を考えていった時に、どれだけ今まで農業に関わっていなかった人を受け入れられるかっていうのが一つ、農業をやっている側に問われていることなんだろうと思います。ですから、確かに地産地消ということで消費することも大事なんですけれども、そういうふうに農業に関心を持っている人を受け入れられるような農村側のハードルを少しでも低くするとか、そういうことも考えていく必要があるのかなというふうに感じました。とにかく、田園環境都市にとっては、いなかとまちなかの連携というのが非常に大きなテーマで、これがうまくいかないと小山の田園環境都市の看板をおろさなければならなくなってくるかもしれませんので、引き続きこれからいなかとまちなかの連携というものをしっかりと進めていけるような形で取り組めればと思います。今日は本当に皆様方に貴重なご意見、これを全て実現していくということになりますと、お時間をいただかなければならないわけですけども、市としてもしっかりと取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。

最後に本市民フォーラムのアンケートを机の上にご用意しております。ご記入いただき、置いて戻りください。なお、ボールペンにつきましては消毒いたしますので、そのまま置いてください。お帰りに当たりましては、職員が西側エレベーターからご誘導しますのでよろしくお願いいたします。その他一点ご案内ですが、政治分野への女性活躍応援講演セミナーチラシを置かせていただきましたので、女性の方、もしくはそういった方がいる方は是非ご応募ください。それでは以上をもちまして、令和4年度第1回小山市民フォーラム終了致します。本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。